

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成26年5月1日現在)

名古屋市立大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成27年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成26年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	8
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	11
基礎資料 4	カリキュラムマップ	66
基礎資料 5	語学教育の要素	67
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	68
基礎資料 7	学生受入状況について	70
基礎資料 8	教員・事務職員数	71
基礎資料 9	専任教員年齢構成	72
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	73
基礎資料11	卒業研究の配属状況	86
基礎資料12	講義室等の数と面積	87
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	88
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	89
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	90

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次												
	科目名					前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	【医療系科目】					通年	237以下	1	65	コ	S	ジ	
	(択) 医薬看護連携地域参加型学習												
	【英語科目】					前期	30以下	3	65	コ			
	コミュニケーション英語1												
	コミュニケーション英語2					後期	30以下	3	45	コ			
	総合英語1					前期または後期	30以下	4	56	コ			
	総合英語2					前期または後期	30以下	4	46	コ			
	【理系基礎科目】					前期	100以下	2	81	コ			
	物理学基礎Ⅰ												
	A：高校での「物理Ⅱ」非履修者					後期	100以下	1	34	コ			
	B：高校での「物理Ⅱ」履修者					前期	100以下	1	65	コ			
	(択) 物理学基礎Ⅱ					前期	100以下	2	70	コ			
	生物学基礎Ⅰ・Ⅱ					後期	100	1	66			ジ	
	Ⅰ：大学入試センター試験での「生物」非受験者対象					前期	100以下	2	65	コ			
	Ⅱ：大学入試センター試験での「生物」受験者対象					後期	100以下	1	49	コ			
	自然科学実験					後期	100以下	1	64	コ			
	(択) 微分積分Ⅰ					前期または後期	100以下	3	66	コ			
(択) 微分積分Ⅱ					前期または後期	100以下	2	65			ジ		
(択) 線形代数学													
【健康・スポーツ科目】													
健康・スポーツ科学論													
健康・スポーツ実技													
【一般教養科目等】													
省略：全学部対象の多岐にわたる科目群のため													
薬学専門教育	薬学概論Ⅰ					前期	100	1	65	コ			
	機能形態学Ⅰ					後期	100	1	64	コ			
	薬学物理化学Ⅰ					後期	100	1	66	コ			
	薬品分析化学					前期	100	1	70	コ			
	薬学有機化学Ⅰ					前期	100	1	66	コ			
	薬学有機化学Ⅱ					後期	100	1	67	コ			
	基礎生物化学					後期	100	1	74	コ			
単位数の合計										(必須科目)			23
										(選択科目)			12
										合計			35

(自): 自由科目(4科目まで選択科目として履修可)

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次												
	科目名					前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	薬学概論Ⅱ					前期	100	1	82	コ			1
	機能形態学Ⅱ					前期	100	1	84	コ			2
	薬学物理化学Ⅱ					前期	100	1	85	コ			2
	薬学物理化学Ⅲ					後期	100以下	1	84	コ			2
	機器分析化学					前期	100以下	1	83	コ			2
	薬学有機化学Ⅲ					前期	100	1	101	コ			2
	薬学有機化学Ⅳ					前期	100	1	84	コ			2
	薬学無機化学					前期	100	1	87	コ			1
	薬品合成化学					後期	100以下	1	102	コ			2
	生物薬品化学Ⅰ					前期	100	1	84	コ			2
	生物薬品化学Ⅱ					後期	100以下	1	82	コ			2
	衛生化学					前期	100	1	83	コ			2
	環境衛生学					後期	100以下	1	84	コ			2
	微生物薬品学Ⅰ					後期	100	1	84	コ			2
	薬用植物学					前期	100	1	83	コ			1
	生薬学Ⅰ					後期	100	1	84	コ			2
	薬理・毒性学Ⅰ					前期	100	1	84	コ			2
	薬理・毒性学Ⅱ					後期	100	1	85	コ			2
	薬剤学Ⅰ					前期	100	1	85	コ			2
	薬剤学Ⅱ					後期	100以下	1	83	コ			2
製剤学Ⅰ					前期	100	1	85	コ			2	
製剤学Ⅱ					後期	100以下	1	85	コ			2	
(択) 薬学英語Ⅰ					前期	100以下	1	81	コ			1	
(択) 薬学英語Ⅱ					前期	100以下	1	81	コ			1	
(択) コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ					前期	237以下	1	29	コ			2	
実習	物理系実習Ⅰ					後期	100	1	82			ジ	1
	物理系実習Ⅱ					後期	100	1	82			ジ	1
	物理系実習Ⅲ					後期	100	1	82			ジ	1
	化学系実習Ⅰ					後期	100	1	82			ジ	1
	化学系実習Ⅱ					後期	100	1	82			ジ	1
	化学系実習Ⅲ					後期	100	1	82			ジ	1
単位数の合計										(必須科目)			47
										(選択科目)			4
										合計			51

(自) : 自由科目 (4科目まで選択科目として履修可)

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

	3 年 次												
	科目名					前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	構造生物学					前期	100以下	1	65	コ			2
	物理分析化学					後期	100以下	1	66	コ			2
	薬品製造化学					前期	100以下	1	72	コ			2
	薬化学					前期	100以下	1	70	コ			2
	微生物薬品学Ⅱ					前期	100以下	1	68	コ			2
	生薬学Ⅱ					前期	100以下	1	68	コ			2
	医薬品代謝学					前期	100	1	66	コ			2
	放射薬品学					後期	100	1	64	コ			1
	放射医療学					後期	100以下	1	64	コ			1
	薬理・毒性学Ⅲ					前期	100以下	1	69	コ			2
	薬理・毒性学Ⅳ					後期	100以下	1	65	コ			2
	免疫学					後期	100以下	1	66	コ			2
	病態生化学					前期	100	1	66	コ			2
	医薬品情報学					前期	100	1	69	コ			2
	医療経済学					後期	100以下	1	65	コ			1
	生物統計学					後期	100以下	1	66	コ			1
	薬事関連法・制度					後期	100以下	1	65	コ			1
	(択) 薬学英语Ⅲ					前期	100以下	1	61	コ			1
	(択) 薬学英语Ⅳ					後期	100以下	1	59	コ			1
	(自) (択) 生命有機化学					後期	100以下	1	22	コ			1
	(自) (択) 医薬品化学					後期	100以下	1	19	コ			1
	(自) (択) コロイド・高分子科学					後期	100以下	1	14	コ			1
	(自) (択) バイオインフォマティクス					後期	100以下	1	15	コ			1
	(自) (択) ケミカルバイオロジー					後期	100以下	1	7	コ			1
	(自) (択) 合成戦略化学					後期	100以下	1	7	コ			1
	(自) (択) 分子感染症学					後期	100以下	1	15	コ			1
	(自) (択) 分子薬理学・神経科学					後期	100以下	1	39	コ			1
	(自) (択) ドラッグデリバリー論					後期	100以下	1	29	コ			1
	(自) (択) 創薬科学・知的財産活用論					後期	100以下	1	53	コ			1
	(自) (択) 分子病態学					後期	100以下	1	1	コ			1
	臨床薬学Ⅰ					後期	60	1	67	コ			2
	臨床薬学Ⅱ					後期	60	1	67	コ			2
	(択) コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ					前期	237以下	1	未開講	コ			2
実習	生物系実習Ⅰ					前期	100	1	64			ジ	1
	生物系実習Ⅱ					前期	100	1	64			ジ	1
	生物系実習Ⅲ					前期	100	1	64			ジ	1
	医療機能系実習Ⅰ					前期	100	1	64			ジ	1
	医療機能系実習Ⅱ					前期	100	1	64			ジ	1
	医療機能系実習Ⅲ					前期	100	1	64			ジ	1
演習	(択) 薬学情報処理演習					後期	100以下	1	56			ジ	1
	(択) プレゼンテーション演習					後期	100以下	1	18			ジ	1
	(択) 基礎薬学演習					後期・4年次前期	60以下	1	21	S		ジ	2
単位数の合計										(必須科目)			39
										(選択科目)			19
										合計			58

(自)： 自由科目 (4科目まで選択科目として履修可)

(凡例)

講義＝コ PBL/SGD＝S 実習・演習＝ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1－4) 学年別授業科目

	4 年 次												
	科目名					前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	公衆衛生学					前期	60	1	54	コ			2
	薬局管理学					前期	60	1	57	コ			1
	臨床薬学Ⅲ					前期	60	1	56	コ			2
	臨床薬学Ⅳ					前期	60	1	59	コ			2
	臨床薬学Ⅴ					前期	60	1	56	コ			2
	臨床薬学Ⅵ					前期	60	1	58	コ			2
	実習	臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）					後期	60	1	57	コ	S	ジ
（択）コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ						前期・後期	237以下	1	未開講			ジ	2
演習	（択）薬学演習Ⅰ					後期	60以下	1	52			ジ	2
単位数の合計										（必須科目）			15
										（選択科目）			4
										合計			19

(自) : 自由科目 (4科目まで選択科目として履修可)

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1－5) 学年別授業科目

	5 年 次												
	科目名					前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
実習	臨床薬学実務実習Ⅱ（病院実習）					前期・後期	60		60			ジ	10
	臨床薬学実務実習Ⅲ（保険薬局実習）					前期・後期	60		59			ジ	10
	（択）コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ					前期・後期	237以下	1	未開講			ジ	2
単位数の 合計										（必須科目）			20
										（選択科目）			2
										合計			22

(自) : 自由科目 (4科目まで選択科目として履修可)

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1－6) 学年別授業科目

	6 年 次												
	科目名					前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
実習	卒業研究実習					前期・後期	60		61			ジ	8
演習	(択) 薬学演習Ⅱ					後期	60以下	1	47			ジ	2
	(択) 薬学特別演習					前期・後期	60以下	1	12			ジ	2
単位数の 合計										(必須科目)			8
										(選択科目)			4
										合計			12

(自) : 自由科目 (4科目まで選択科目として履修可)

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習・演習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1－7) 学年別授業科目

(基礎資料1－1) から (基礎資料1－6) までの結果から下記の (1) および (2) を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	9	17
教養教育科目	10	17
語学教育科目	8	8
医療安全教育科目	2	6
生涯学習の意欲醸成科目	4	9
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	7	16

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	23	12	35
2 年 次	47	4	51
3 年 次	39	19	58
4 年 次	15	4	19
5 年 次	20	2	22
6 年 次	8	4	12
合計	152	45	197

(基礎資料 2-1) 在籍学生数

			1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計	
入学年度 における	入学定員数		60	60	60	60	60	60	360	A
	編入定員数									B
	入学者数		67	86	72	79	73	66	443	
基準日 における	各学年の在籍学生数		68	82	65	60	62	66	403	C
	編入学生数（内）※									D
	留年者数（内）		1					12	13	
	留年者の 入学年度	平成21年度							0	
		平成22年度							0	
		平成23年度							0	
		平成24年度							0	
		平成25年度	1						1	
平成26年度								0		
C／（A＋B）			1.12	※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。						
D／B			－							

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第 3 位を四捨五入し、小数点以下第 2 位まで表示してください。
- 2 「編入学生数 (内)」および「留年者数 (内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料 2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
総在籍 学生数	239				299				360				372				388				403			
	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数
1 年次		4	9			2	11			2	13			2	6			1	5		1	3	4	
2 年次	1		1		1		1				4				3				4					
3 年次			3				1												3					
4 年次	1				2		1						2				3				1		1	
5 年次	—	—	—		1						1													
6 年次	—	—	—		—	—	—			8	1		1	7			2	12				3		
合計	2	4	13		4	2	14		0	10	19		3	9	9		5	13	12		2	6	5	

[注] 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2－3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数		卒業率 (%)	
卒業生総数		52 名	56 名	54 名	63 名	名	名			所定年限 卒業生	総卒業生
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	52 名	10 名	2 名	名	名	名	平成18年度	84 名	61.9%	76.2%
	平成19年度入学者	名	46 名	8 名	1 名	名	名	平成19年度	78 名	59.0%	70.5%
	平成20年度入学者	名	名	44 名	9 名	名	名	平成20年度	66 名	66.7%	80.3%
	平成21年度入学者	名	名	名	53 名	名	名	平成21年度	66 名	80.3%	80.3%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	73 名	0.0%	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	79 名	0.0%	0.0%

(基礎資料 3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムの SBOs に該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムの SBOs に該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)		薬学概論 II	臨床薬学 I・II	臨床薬学 III・IV・VI		
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。						
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。						
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。						
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)						
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。		薬学概論 II				
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。		薬学概論 II				
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)		薬学概論 II				
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)						
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)						
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。		薬学概論 II				
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。						
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。						
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)						
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。		薬学概論 II				
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)						
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)		薬学概論 II				
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)		薬学概論 II				
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（3）信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。		薬学概論Ⅱ				
2）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
3）相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1）対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。		薬学概論Ⅱ				
2）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）						
3）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（技能）						
【患者の気持ちに配慮する】						
1）病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。		薬学概論Ⅱ				
2）患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）						
3）患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）						
4）患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）						
5）不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）						
【チームワーク】						
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。		薬学概論Ⅱ				
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。（態度）						
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1）薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。		薬学概論Ⅱ				
2）薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
B イントロダクション						
（１）薬学への招待						
【薬学の歴史】						
１）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学概論Ⅰ					
２）薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
１）薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	薬学概論Ⅰ					
２）薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。						
３）医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
４）医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。						
５）疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
１）「薬とは何か」を概説できる。	薬学概論Ⅰ					
２）薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
３）化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
４）種々の剤形とその使い方について概説できる。						
５）一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						
１）先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	薬学概論Ⅰ					
２）麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。						
３）薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						
【日本薬局方】						
１）日本薬局方の意義と内容について概説できる。		薬学概論Ⅱ				
【総合演習】						
１）医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）		薬学概論Ⅱ				
２）身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）						
（２）早期体験学習						
１）病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。		薬学概論Ⅱ				
２）開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）						
３）製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）						
４）保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C 薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
C1 物質の物理的性質						
（1）物質の構造						
【化学結合】						
1）化学結合の成り立ちについて説明できる。		薬学物理化学Ⅱ				
2）軌道の混成について説明できる。						
3）分子軌道の基本概念を説明できる。						
4）共役や共鳴の概念を説明できる。						
【分子間相互作用】						
1）静電相互作用について例を挙げて説明できる。		薬学物理化学Ⅱ				
2）ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
3）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4）分散力について例を挙げて説明できる。						
5）水素結合について例を挙げて説明できる。			構造生物学			
6）電荷移動について例を挙げて説明できる。						
7）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。			構造生物学			
【原子・分子】						
1）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		機器分析化学 薬学物理化学Ⅱ	構造生物学			
2）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3）スピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4）分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。						
5）代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）		化学系実習Ⅰ				
6）偏光および旋光性について説明できる。		機器分析化学	物理分析化学			
7）散乱および干渉について説明できる。			構造生物学			
8）結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】						
1）原子の構造と放射壊変について説明できる。			放射薬品学			
2）電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4）核反応および放射平衡について説明できる。						
5）放射線の測定原理について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
(2) 物質の状態 I						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	薬学物理化学 I					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		薬学物理化学 II				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。	薬学物理化学 I					
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3) 仕事および熱の概念を説明できる。						
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6) 代表的な過程 (変化) における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)						
7) エンタルピーについて説明できる。		機器分析化学				
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)						
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。						
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	薬学物理化学 I					
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)						
4) 熱力学第三法則について説明できる。						
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)						
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van 't Hoffの式) について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		薬学物理化学III				
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。						
4) 物質の溶解平衡について説明できる。						
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。		薬学物理化学III 製剤学 I				
6) 界面における平衡について説明できる。						
7) 吸着平衡について説明できる。						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		製剤学 I				
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	薬学物理化学 I	薬学物理化学III				
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	薬学物理化学 I					
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。						
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Huckel の式) について説明できる。						
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		薬学物理化学III				
2) 標準電極電位について説明できる。						
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。						
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。		薬剤学 II				
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		薬学物理化学 II				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係 (Arrheniusの式) を説明できる。						
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応など) について説明できる。						
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。						
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		製剤学 I				
2) 沈降現象について説明できる。						
3) 流動現象および粘度について説明できる。		製剤学 I 物理系実習 I				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	薬品分析化学	物理系実習Ⅲ				
2) 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)						
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)	薬品分析化学					
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。						
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。						
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。						
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	薬品分析化学	物理系実習Ⅲ				
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。						
3) 酸化還元電位について説明できる。						
4) 酸化還元平衡について説明できる。						
5) 分配平衡について説明できる。						
6) イオン交換について説明できる。						
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	薬品分析化学					
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		物理系実習Ⅲ				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	薬品分析化学					
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析化学					
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。						
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)		物理系実習Ⅲ				
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析化学				
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。	薬品分析化学	物理系実習Ⅱ・Ⅲ				
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
１）代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）			生物系実習Ⅰ			
２）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		物理系実習Ⅲ				
【分析技術】						
１）臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。	薬品分析化学					
２）免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
３）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		物理系実習Ⅱ・Ⅲ				
４）電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		物理系実習Ⅲ				
５）代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
６）代表的なドラッグミストリーについて概説できる。						
７）代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。			放射薬品学 放射医療学			
８）画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。						
９）薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメーjing、マイクロチップなど）について概説できる。		機器分析化学				
【薬毒物の分析】						
１）毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。		衛生化学				
２）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
３）代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
（１）生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
１）紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
２）蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析化学				
３）赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
４）電子スピン共鳴（ESR）スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
５）旋光度測定法（旋光分散）、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			物理分析化学			
６）代表的な生体分子（核酸、タンパク質）の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。（知識・技能）		物理系実習Ⅲ				
【核磁気共鳴スペクトル】						
１）核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		機器分析化学	構造生物学			
２）生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
１）質量分析法の原理を説明できる。		機器分析化学				
２）生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
１）X線結晶解析の原理を概説できる。		機器分析化学	構造生物学			
２）生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						
【相互作用の解析法】						
１）生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			構造生物学			
（２）生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
１）生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。			構造生物学			
２）タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
３）タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）について、具体例を用いて説明できる。						
４）タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
５）核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
６）生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
１）鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			構造生物学			
２）転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
３）脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。						
４）生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C4 化学物質の性質と反応						
（１）化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
１）基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。						
２）薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						
３）有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。						
４）有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。						
５）基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。						
６）ルイス酸・塩基を定義することができる。						
７）炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。	薬学有機化学Ⅰ	薬学有機化学Ⅲ 薬品合成化学	薬化学			
８）反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
９）有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】						
１）構造異性体と立体異性体について説明できる。	薬学有機化学Ⅰ					
２）キラリティーと光学活性を概説できる。						
３）エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
４）ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
５）絶対配置の表示法を説明できる。						
６）Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
７）エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
１）代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。		薬学無機化学				
２）代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
３）窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
４）イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
５）代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
１）代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。		薬学無機化学				
２）配位結合を説明できる。						
３）代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
４）錯体の安定度定数について説明できる。						
５）錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。						
６）錯体の反応性について説明できる。						
７）医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（2）有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1）基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	薬学有機化学Ⅰ					
2）アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3）アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4）シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5）シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。						
7）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
1）アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。		薬学有機化学Ⅲ				
2）アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。						
3）アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。						
4）カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5）共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。			物理分析化学			
6）アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。		薬学有機化学Ⅲ				
7）アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1）代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。		薬化学				
2）芳香族性（Huckel則）の概念を説明できる。						
3）芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4）芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5）芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（3）官能基						
【概説】						
1）代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		薬学有機化学Ⅲ 薬品合成化学	薬化学 薬品製造化学			
2）複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3）生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
4）代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）		化学系実習Ⅰ・Ⅱ				
5）官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）						
6）日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		薬学有機化学Ⅲ 薬品合成化学	薬化学 薬品製造化学			
【有機ハロゲン化合物】						
1）有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学Ⅱ					
2）求核置換反応（S _N 1および S _N 2反応）の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3）ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff則）を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1）アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学Ⅱ	薬学有機化学Ⅲ				
2）フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			薬化学			
3）フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1）エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		薬学有機化学Ⅲ				
2）オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1）アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		薬品合成化学	薬品製造化学			
2）カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			薬品製造化学			
【アミン】						
1）アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			薬品製造化学			
2）代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1）アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	薬学有機化学Ⅱ	薬品合成化学				
2）アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3）含窒素化合物の塩基性度を説明できる。			薬品製造化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）化学物質の構造決定						
【総論】						
１）化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		薬学有機化学Ⅳ				
【 ¹ H NMR】						
１）NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
２）化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
３）有機化合物中の代表的水素原子について、おおその化学シフト値を示すことができる。						
４）重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
５） ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
６） ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。						
７） ¹ H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
８）代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。（技能）		薬学有機化学Ⅳ 化学系実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
【 ¹³ C NMR】						
１） ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。						
２）代表的な構造中の炭素について、おおその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
１）IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
２）IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）		薬学有機化学Ⅳ 化学系実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
【紫外可視吸収スペクトル】						
１）化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。						
【マスマスペクトル】						
１）マスマスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
２）イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
３）ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明ができる。						
４）塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスマスペクトルの特徴を説明できる。						
５）代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
６）高分解能マスマスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
７）基本的な化合物のマスマスペクトルを解析できる。（技能）		薬学有機化学Ⅳ 化学系実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
【比旋光度】						
１）比旋光度測定法の概略を説明できる。						
２）実測値を用いて比旋光度を計算できる。（技能）						
３）比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	薬学有機化学Ⅰ					
４）旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。			物理分析化学			
【総合演習】						
１）代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。		薬学有機化学Ⅲ				
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。	薬学有機化学Ⅱ					
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。			薬化学			
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。		薬学有機化学Ⅲ				
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		薬品合成化学	薬品製造化学			
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9) カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。			薬品製造化学			
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	薬学有機化学Ⅱ					
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）		化学系実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。			物理分析化学			
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。		薬学有機化学Ⅲ				
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。		薬品合成化学				
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	薬学有機化学Ⅰ	薬学有機化学Ⅲ				
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	薬学有機化学Ⅰ・Ⅱ	薬学有機化学Ⅲ				
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。	薬学有機化学Ⅰ	薬学有機化学Ⅲ				
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）		化学系実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）						
3) 反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
（１）生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
１）タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。			構造生物学			
２）糖類および多糖類の基本構造を概説できる。						
３）糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						
４）核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
５）生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
１）生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			物理分析化学			
２）核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。						
３）複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
１）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。		薬学無機化学				
２）活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
３）一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
１）代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。		生物薬品化学Ⅰ				
２）代表的な酵素（キモトリブシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。						
３）タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（2）医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
１）代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			薬化学 薬理・毒性学Ⅲ			
２）医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			薬化学			
【医薬品に含まれる複素環】						
１）医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			物理分析化学			
２）医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
３）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
４）代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
５）代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
１）生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			構造生物学			
２）生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
３）分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。（知識・技能）		物理系実習Ⅱ				
【生体分子を模倣した医薬品】						
１）カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			薬化学 薬品製造化学 薬理・毒性学Ⅲ			
２）アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
３）ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			病態生化学			
４）核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	基礎生物化学		物理分析化学	臨床薬学Ⅳ		
５）ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
１）アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			物理分析化学			
２）インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。						
３）β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。	薬学概論Ⅰ		微生物薬品学Ⅱ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C7 自然が生み出す薬物						
（１）薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
１）代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学Ⅰ				
２）生薬の歴史について概説できる。						
３）生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
１）代表的な薬用植物の形態を観察する。（技能）		化学系実習Ⅲ				
２）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		薬用植物学				
３）代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
４）代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。（技能）		化学系実習Ⅲ				
５）代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		薬用植物学				
【植物以外の医薬資源】						
１）動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学Ⅰ				
【生薬成分の構造と生合成】						
１）代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。			生薬学Ⅱ			
２）代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
３）代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
４）代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
５）代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
６）代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
７）代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
【農薬、香粧品としての利用】						
１）天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			生薬学Ⅱ			
【生薬の同定と品質評価】						
１）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学Ⅰ 化学系実習Ⅲ				
２）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）						
３）代表的な生薬の確認試験を実施できる。（技能）						
４）代表的な生薬の純度試験を実施できる。（技能）						
５）生薬の同定と品質評価法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
１）医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			生薬学Ⅱ			
２）シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。						
３）医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。						
【天然物質の取扱い】						
１）天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。（技能）			生薬学Ⅱ 化学系実習Ⅲ			
２）代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。						
【微生物が生み出す医薬品】						
１）抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。				臨床薬学Ⅳ		
【発酵による医薬品の生産】						
１）微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。				臨床薬学Ⅳ		
【発酵による有用物質の生産】						
１）微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。				臨床薬学Ⅳ		
（３）現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
１）漢方医学の特徴について概説できる。				臨床薬学Ⅴ		
２）漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
３）漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
４）漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
５）代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
６）漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
７）漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
１）代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。				臨床薬学Ⅴ		
２）漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【生物系薬学を学ぶ】						
C8 生命体の成り立ち						
（１）ヒトの成り立ち						
【概論】						
１）ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	機能形態学Ⅰ					
２）ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
１）中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学Ⅰ					
２）体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
３）自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
１）主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ					
２）主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
１）皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ					
【循環器系】						
１）心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅱ				
２）血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
３）リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
１）肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅱ				
【消化器系】						
１）胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅱ				
２）肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
１）腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅱ				
【生殖系】						
１）精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅱ				
【内分泌系】						
１）脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅱ 病態生化学				
【感覚器系】						
１）眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学Ⅰ					
【血液・造血器系】						
１）骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅱ	薬理・毒性学Ⅲ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（2）生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1）細胞集合による組織構築について説明できる。	機能形態学Ⅰ					
2）臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能の特徴を説明できる。						
3）代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。（技能）			生物系実習Ⅰ・Ⅲ			
【細胞膜】						
1）細胞膜の構造と性質について説明できる。	機能形態学Ⅰ 基礎生物化学					
2）細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。						
3）細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1）細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）の構造と機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ					
【細胞の分裂と死】						
1）体細胞分裂の機構について説明できる。	機能形態学Ⅰ					
2）生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3）アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4）正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。				臨床薬学Ⅳ		
【細胞間コミュニケーション】						
1）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		薬理・毒性学Ⅰ				
2）主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	機能形態学Ⅰ					
（3）生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1）神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅰ	薬理・毒性学Ⅰ・Ⅱ				
2）シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4）筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1）主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		機能形態学Ⅱ 薬理・毒性学Ⅰ	病態生化学 薬理・毒性学Ⅲ			
2）血糖の調節機構を説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ・Ⅳ			
【循環・呼吸系の調節機構】						
1）血圧の調節機構を説明できる。		機能形態学Ⅱ				
2）肺および組織におけるガス交換を説明できる。						
3）血液凝固・線溶系の機構を説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
【体液の調節機構】						
1）体液の調節機構を説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
2）尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1）消化、吸収における神経の役割について説明できる。		機能形態学Ⅱ				
2）消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1）体温の調節機構を説明できる。		薬理毒性学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）小さな生き物たち						
【総論】						
１）生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物薬品学Ⅰ				
２）原核生物と真核生物の違いを説明できる。			生物系実習Ⅲ			
【細菌】						
１）細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物薬品学Ⅰ	生物系実習Ⅲ			
２）細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
３）グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。			生物系実習Ⅲ			
４）マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
５）腸内細菌の役割について説明できる。						
６）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。			微生物薬品学Ⅱ 生物系実習Ⅲ			
【細菌毒素】						
１）代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		衛生化学 微生物薬品学Ⅰ				
【ウイルス】						
１）代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物薬品学Ⅰ				
２）ウイルスの分類法について概説できる。						
３）代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
１）主な真菌の性状について説明できる。		微生物薬品学Ⅰ				
２）主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
１）滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物薬品学Ⅰ	生物系実習Ⅲ			
２）主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度）						
３）主な滅菌法を実施できる。（技能）						
【検出方法】						
１）グラム染色を実施できる。（技能）			生物系実習Ⅲ			
２）無菌操作を実施できる。（技能）						
３）代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						
４）細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。						
５）代表的な細菌を同定できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。						
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	基礎生物化学					
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	基礎生物化学					
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生物系実習Ⅰ			
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	基礎生物化学					
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生物系実習Ⅰ			
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		衛生化学				
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（2）生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。		生物薬品化学Ⅱ				
2) DNAの構造について説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ				
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ				
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						
4) 染色体の構造を説明できる。						
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。		生物薬品化学Ⅰ				
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。						
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。		生物薬品化学Ⅰ				
2) 遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。						
3) DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。		生物薬品化学Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（3）生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	基礎生物化学					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。		生物薬品化学Ⅰ				
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）			生物系実習Ⅰ			
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	基礎生物化学					
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。						
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。						
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）		物理系実習Ⅱ・Ⅲ				
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）						
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
１）食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		衛生化学				
【ATPの産生】						
１）ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。						
２）解糖系について説明できる。						
３）クエン酸回路について説明できる。						
４）電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。						
５）脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
６）アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
７）エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
８）ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
９）ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10）アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
１）グリコーゲンの役割について説明できる。						
２）糖新生について説明できる。						
３）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。						
４）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
５）食餌性の血糖変動について説明できる。						
６）インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
７）糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
８）ケト酸性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ 衛生化学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（５）生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
１）代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。			病態生化学			
２）代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
３）代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
４）代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オータコイドなど】						
１）エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
２）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
３）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。						
４）主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。						
５）主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。						
６）一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
１）モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	機能形態学Ⅰ	薬理・毒性学Ⅰ				
２）アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
３）ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
４）アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
１）代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			免疫学			
２）代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
３）代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
１）細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	基礎生物化学	薬理・毒性学Ⅰ	薬理・毒性学Ⅲ			
２）細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
３）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
４）代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（6）遺伝子进行操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1）組換えDNA技術の概要を説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ	微生物薬品学Ⅱ 生物系実習Ⅰ			
2）細胞からDNAを抽出できる。（技能）						
3）DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）						
4）組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）						
5）遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）						
【遺伝子のクローニング技術】						
1）遺伝子クローニング法の概要を説明できる。	基礎生物化学		生物系実習Ⅰ			
2）cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3）遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4）PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
5）RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6）DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
7）コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）						
【遺伝子機能の解析技術】						
1）細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。			微生物薬品学Ⅱ			
2）外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
3）特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4）遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C10 生体防御						
（１）身体をまもる						
【生体防御反応】						
１）自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。			免疫学			
２）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
３）補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
４）免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。						
５）クローン選択説を説明できる。						
６）体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
１）免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。			免疫学			
２）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
３）食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
４）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
１）抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。			免疫学			
２）MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
３）T細胞による抗原の認識について説明できる。						
４）抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。						
５）免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
（２）免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
１）アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			免疫学			
２）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
３）代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
４）代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
１）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			免疫学			
２）細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
３）腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
４）代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
１）予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫学			
２）主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						
３）予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
１）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			免疫学 生物系実習Ⅱ			
２）抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
３）沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）						
４）ELISA法、ウェスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
１）主なDNAウイルス（サイトメガロウイルス、EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床薬学Ⅳ		
２）主なRNAウイルス（ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
３）レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。						
４）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
５）グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
６）グラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
７）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、ブルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
８）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
９）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11）真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12）代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13）プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
１）院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		微生物薬品学Ⅰ		臨床薬学Ⅳ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【健康と環境】						
C11 健康						
（１）栄養と健康						
【栄養素】						
１）栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
２）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		衛生化学				
３）脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
４）食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。						
５）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
６）栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
７）日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
８）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
１）食品が腐敗する機構について説明できる。		環境衛生学				
２）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）						
３）食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
４）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
５）食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		衛生化学				
６）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
７）食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
８）主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）						
９）代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10）遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）						
【食中毒】						
１）食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		環境衛生学				
２）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。						
３）食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
４）代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
５）化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		衛生化学 環境衛生学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（2）社会・集団と健康						
【保健統計】						
1）集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				公衆衛生学		
2）人口静態と人口動態について説明できる。						
3）国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4）死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5）人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1）死因別死亡率の変遷について説明できる。				公衆衛生学		
2）日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3）高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）						
【疫学】						
1）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				公衆衛生学		
2）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4）患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）						
5）要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）						
6）医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7）疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
（3）疾病の予防						
【健康とは】						
1）健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				公衆衛生学		
2）世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				公衆衛生学		
2）疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3）新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4）疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）						
【感染症の現状とその予防】						
1）現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。		微生物薬品学Ⅱ		公衆衛生学		
2）新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3）一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4）母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5）性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6）予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				公衆衛生学		
2）生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3）食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1）主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。				公衆衛生学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C12 環境						
（１）化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
１）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
２）第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。		衛生化学				
３）第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
１）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		衛生化学				
２）変異原性試験（Ames試験など）の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
３）発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
４）代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
１）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		衛生化学				
２）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
３）重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		衛生化学 環境衛生学				
４）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
５）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。		環境衛生学				
６）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
７）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。						
８）環境ホルモン（内分泌攪乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）						
【化学物質による中毒と処置】						
１）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		衛生化学				
２）化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）						
【電離放射線の生体への影響】						
１）人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。			放射薬品学 放射医療学			
２）電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
３）電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
４）電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。						
５）電離放射線を防御する方法について概説できる。						
６）電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
１）非電離放射線の種類を列挙できる。			放射薬品学 放射医療学			
２）紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
３）赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
１）地球環境の成り立ちについて概説できる。		環境衛生学				
２）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
３）人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）						
４）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
５）食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
６）化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
７）環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
１）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		環境衛生学				
２）水の浄化法について説明できる。						
３）水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
４）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生物系実習Ⅱ			
５）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
６）水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
７）DO，BOD，CODを測定できる。（技能）						
８）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
１）空気の成分を説明できる。		環境衛生学				
２）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
３）主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）			生物系実習Ⅱ			
４）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。						
【室内環境】						
１）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		衛生化学 環境衛生学	生物系実習Ⅱ			
２）室内環境と健康との関係について説明できる。						
３）室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
４）シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
１）廃棄物の種類を列挙できる。		衛生化学 環境衛生学				
２）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
３）医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）						
４）マニフェスト制度について説明できる。						
５）PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
１）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		環境衛生学				
２）環境基本法の理念を説明できる。						
３）大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
４）水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
（１）薬の作用と生体内運命						
【薬の作用】						
１）薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理・毒性学Ⅰ	薬理・毒性学Ⅲ			
２）アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
３）薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
４）代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
５）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
６）薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
７）代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
８）薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
１）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬剤学Ⅱ 薬理・毒性学Ⅰ				
２）薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。						
３）経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。						
４）薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
５）生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
１）薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。		薬理・毒性学Ⅰ	薬理・毒性学Ⅳ			
２）副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
【動物実験】						
１）動物実験における倫理について配慮する。（態度）			医療機能系実習Ⅰ・Ⅱ			
２）代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
３）実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）薬の効き方Ⅰ						
【中枢神経系に作用する薬】						
１）代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理・毒性学Ⅱ				
２）代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
４）代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
５）代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
６）中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			医療機能系実習Ⅱ			
【自律神経系に作用する薬】						
１）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理・毒性学Ⅰ				
２）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
４）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）			医療機能系実習Ⅰ			
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
１）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理・毒性学Ⅰ				
２）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）			臨床薬学Ⅱ	臨床薬学Ⅲ・Ⅳ		
【循環器系に作用する薬】						
１）代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
２）代表的心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
４）代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
１）代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅳ			
２）代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
１）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理・毒性学Ⅳ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）薬の効き方Ⅱ						
【ホルモンと薬】						
１）ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			臨床薬学Ⅱ	臨床薬学Ⅲ・Ⅳ		
２）代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
３）代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
１）代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
２）その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅳ			
３）代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
４）代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
５）代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
１）利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
【血液・造血器系に作用する薬】						
１）代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
２）代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
３）代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
１）代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅳ			
２）代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理・毒性学Ⅱ				
３）代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅳ			
４）カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
１）代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理・毒性学Ⅳ			
２）慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
３）アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
１）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理・毒性学Ⅳ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
１）薬物の主な吸収部位を列挙できる。		薬剤学Ⅱ				
２）消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
３）受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。						
４）能動輸送の特徴を説明できる。						
５）非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
６）薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
１）薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。		薬剤学Ⅱ				
２）薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
３）薬物の胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。						
４）薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。						
５）薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。						
６）分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
７）代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）			医療機能系実習Ⅲ			
【代謝】						
１）薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			医薬品代謝学			
２）薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
３）薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
４）シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
５）薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
６）薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
７）薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。						
８）初回通過効果について説明できる。						
９）肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
１）腎における排泄機構について説明できる。		薬剤学Ⅰ・Ⅱ				
２）腎クリアランスについて説明できる。		薬剤学Ⅰ				
３）糸球体ろ過速度について説明できる。						
４）胆汁中排泄について説明できる。		薬剤学Ⅱ				
５）腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
６）唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
７）尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
１）薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		薬剤学Ⅱ				
２）薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			医薬品代謝学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（５）薬物動態の解析						
【薬動学】						
１）薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。		薬剤学Ⅰ		臨床薬学Ⅵ		
２）薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
３）線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）						
４）線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）						
５）線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
６）生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）						
７）全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）						
８）非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
９）モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10）薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）						
11）点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）		医療機能系実習Ⅲ				
12）連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）						
【TDM（Therapeutic Drug Monitoring）】						
１）治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。		薬剤学Ⅰ		臨床薬学Ⅵ		
２）TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
３）薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）						
４）至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。						
５）代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C14 薬物治療						
（１）体の変化を知る						
【症候】						
１）以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			臨床薬学Ⅰ・Ⅱ	臨床薬学Ⅲ・Ⅳ		
【症候と臨床検査値】						
１）代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			臨床薬学Ⅰ・Ⅱ	臨床薬学Ⅲ・Ⅳ		
２）代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
３）代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
４）代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
５）代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
６）代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
７）感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
８）悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
９）尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
１０）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
１１）代表的なバイタルサインを列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）						
【薬物治療の位置づけ】						
１）代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。			臨床薬学Ⅰ			
２）適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）						
【心臓・血管系の疾患】						
１）心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			臨床薬学Ⅱ			
２）不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
６）以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血系の疾患】						
１）血液・造血系における代表的な疾患を挙げることができる。			臨床薬学Ⅱ			
２）貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
１）消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。			臨床薬学Ⅱ			
２）消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
６）以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）			臨床薬学Ⅱ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）						
【腎臓・尿路の疾患】						
１）腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
１）男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症						
【呼吸器・胸部の疾患】						
１）肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			臨床薬学Ⅱ			
２）閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
１）ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
１）糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				臨床薬学Ⅲ		
２）高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
１）神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
６）以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			臨床薬学Ⅱ	臨床薬学Ⅲ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
１）代表的な精神疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
１）耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
１）皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
１）眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
１）骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
１）代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				臨床薬学Ⅲ		
２）アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
１）移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				臨床薬学Ⅲ		
【緩和ケアと長期療養】						
１）癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				臨床薬学Ⅲ		
２）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）				臨床薬学Ⅲ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（５）病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
１）主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。				臨床薬学Ⅳ		
【抗菌薬】						
１）抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			微生物薬品学Ⅱ			
２）代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
３）代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
４）テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
５）マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
６）アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
７）ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
８）サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。						
９）代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11）代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12）特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
１）代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学Ⅱ			
【抗真菌薬】						
１）代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学Ⅱ			
【抗ウイルス薬】						
１）代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学Ⅱ			
２）抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
１）主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			微生物薬品学Ⅱ			
２）主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
１）悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				臨床薬学Ⅳ		
２）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
３）化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
１）代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				臨床薬学Ⅳ		
２）代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
３）代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
４）代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
５）抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
６）抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
７）代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
８）代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
１）主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				臨床薬学Ⅳ		
２）主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
３）副作用軽減のための対処法を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C15 薬物治療に役立つ情報						
（１）医薬品情報						
【情報】						
１）医薬品として必須の情報を列挙できる。						
２）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。			医薬品情報学			
３）医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
４）医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
５）医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
１）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医薬品情報学			
２）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
３）厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
４）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
５）医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
６）医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
７）医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）						
【収集・評価・加工・提供・管理】						
１）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医薬品情報学			
２）医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
３）医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）						
４）医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）						
５）主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
１）代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学			
２）医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）						
３）インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）						
【EBM（Evidence-Based Medicine）】						
１）EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医薬品情報学			
２）EBM実践のプロセスを概説できる。						
３）臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						
４）メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）						
５）真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
６）臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。						
【総合演習】						
１）医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			医薬品情報学			
２）医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
（2）患者情報							
【情報と情報源】							
1）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。							
2）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			臨床薬学Ⅱ	臨床薬学Ⅲ・Ⅳ			
【収集・評価・管理】							
1）問題志向型システム（POS）を説明できる。			医薬品情報学				
2）薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）							
3）患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）							
4）得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）							
5）SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）				薬局管理学			
6）チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）							
7）患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）							
（3）テーラーメイド薬物治療を目指して							
【遺伝的素因】							
1）薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。							
2）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				臨床薬学Ⅵ			
3）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。							
【年齢的要因】							
1）新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
2）幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3）高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬学Ⅵ			
【生理的要因】							
1）生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬学Ⅵ			
2）授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3）栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
【合併症】							
1）腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
2）肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3）心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬学Ⅵ			
【投与計画】							
1）患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）				臨床薬学Ⅵ			
2）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。							
3）薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）							
4）薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
（１）製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
１）溶液の濃度と性質について説明できる。						
２）物質の溶解とその速度について説明できる。		製剤学Ⅰ				
３）溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
４）物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
１）界面の性質について説明できる。		製剤学Ⅰ				
２）代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
３）乳剤の型と性質について説明できる。						
４）代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
５）分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
１）流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		製剤学Ⅰ				
２）高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
３）製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
４）粉体の性質について説明できる。						
５）製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
６）薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
７）粉末 X 線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
８）製剤材料の物性を測定できる。（技能）				医療機能系実習Ⅲ		
（２）剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
１）代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。		製剤学Ⅱ				
２）代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
３）代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
４）代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
５）代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
６）エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
７）代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
８）代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
１）製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。		製剤学Ⅱ				
２）単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）			医療機能系実習Ⅲ			
３）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。		製剤学Ⅱ				
【製剤試験法】						
１）日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。		製剤学Ⅱ				
２）日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）			医療機能系実習Ⅲ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（3）DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）						
【DDSの必要性】						
1）従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。		製剤学Ⅱ				
2）DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1）放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。		製剤学Ⅱ				
2）代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3）代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4）徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5）経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6）腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1）ターゲティングの概要と意義について説明できる。		製剤学Ⅱ				
2）代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1）代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。		製剤学Ⅱ				
【その他のDDS】						
1）代表的な生体膜透過促進法について説明できる。		製剤学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C17 医薬品の開発と生産						
（1）医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1）医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。		製剤学Ⅱ				
2）疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1）医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。		製剤学Ⅱ				
2）新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3）ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4）希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1）非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。		製剤学Ⅱ				
【医薬品の承認】						
1）臨床試験の目的と実施概要を説明できる。		製剤学Ⅱ				
2）医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3）市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4）医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1）医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。		製剤学Ⅱ				
2）医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
3）医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1）GLP（Good Laboratory Practice）、GMP（Good Manufacturing Practice）、GCP（Good Clinical Practice）、GPMSP（Good Post-Marketing Surveillance Practice）の概略と意義について説明できる。		製剤学Ⅱ				
【特許】						
1）医薬品の創製における知的財産権について概説できる。		製剤学Ⅱ				
【薬害】						
1）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			薬理・毒性学Ⅳ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
１）古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。	薬学概論Ⅰ					
【標的生体分子との相互作用】						
１）医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。	基礎生物化学		薬品製造化学 物理分析化学 薬理・毒性学Ⅲ			
２）医薬品と標的の生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。	薬学概論Ⅰ					
３）立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
４）医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。			薬理・毒性学Ⅲ			
【スクリーニング】						
１）スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。			医薬品化学			
２）代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
１）定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。			医薬品化学			
２）生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。						
３）薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。			薬剤学Ⅱ			
（３）バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
１）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				臨床薬学Ⅳ		
２）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
３）組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
１）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				臨床薬学Ⅳ		
【細胞を利用した治療】						
１）再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				臨床薬学Ⅳ		
【ゲノム情報の創薬への利用】						
１）ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。				臨床薬学Ⅳ		
２）バイオインフォマティクスについて概説できる。						
３）遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンブロット法など）について概説できる。						
４）ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
１）代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。				臨床薬学Ⅳ		
２）疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）治験						
【治験の意義と業務】						
１）治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。			医薬品情報学			
２）医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
３）治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。						
４）公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
５）治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）						
６）治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
１）治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。			医薬品情報学			
２）治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
３）治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
４）インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）						
（５）バイオスタティクス						
【生物統計の基礎】						
１）帰無仮説の概念を説明できる。			生物統計学			
２）パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
３）主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
４）χ ² 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
５）最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）						
６）主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。						
７）主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
１）臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。			生物統計学			
２）バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
３）バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。						
４）リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）						
５）基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C18 薬学と社会						
（１）薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
１）薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）		薬学概論Ⅱ	薬事関連法・制度			
２）医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）						
【法律と制度】						
１）薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。			薬事関連法・制度			
２）薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
３）薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
４）薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
５）医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
６）医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
７）製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
１）麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			薬事関連法・制度			
２）覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
３）大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
４）毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
１）放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。			薬事関連法・制度			
２）代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
（２）社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
１）日本における社会保障制度のしくみを説明できる。			医療経済学			
２）社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
３）介護保険制度のしくみを説明できる。						
４）高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
１）医療保険の成り立ちと現状を説明できる。			医療経済学			
２）医療保険のしくみを説明できる。						
３）医療保険の種類を列挙できる。						
４）国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
１）国民医療費の動向を概説できる。			医療経済学			
２）保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
３）診療報酬と薬価基準について説明できる。						
４）医療費の内訳を概説できる。						
５）薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
６）代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
（3）コミュニティーファーマシー							
【地域薬局の役割】							
1）地域薬局の役割を列挙できる。							
2）在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。							
3）学校薬剤師の役割を説明できる。				薬局管理学			
【医薬分業】							
1）医薬分業のしくみと意義を説明できる。					薬局管理学		
2）医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）							
3）かかりつけ薬局の意義を説明できる。							
【薬局の業務運営】							
1）保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				薬局管理学			
2）薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。							
3）医薬品の流通のしくみを概説できる。							
4）調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。							
【OTC薬・セルフメディケーション】							
1）地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）				薬局管理学			
2）主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。							
3）漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。							

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

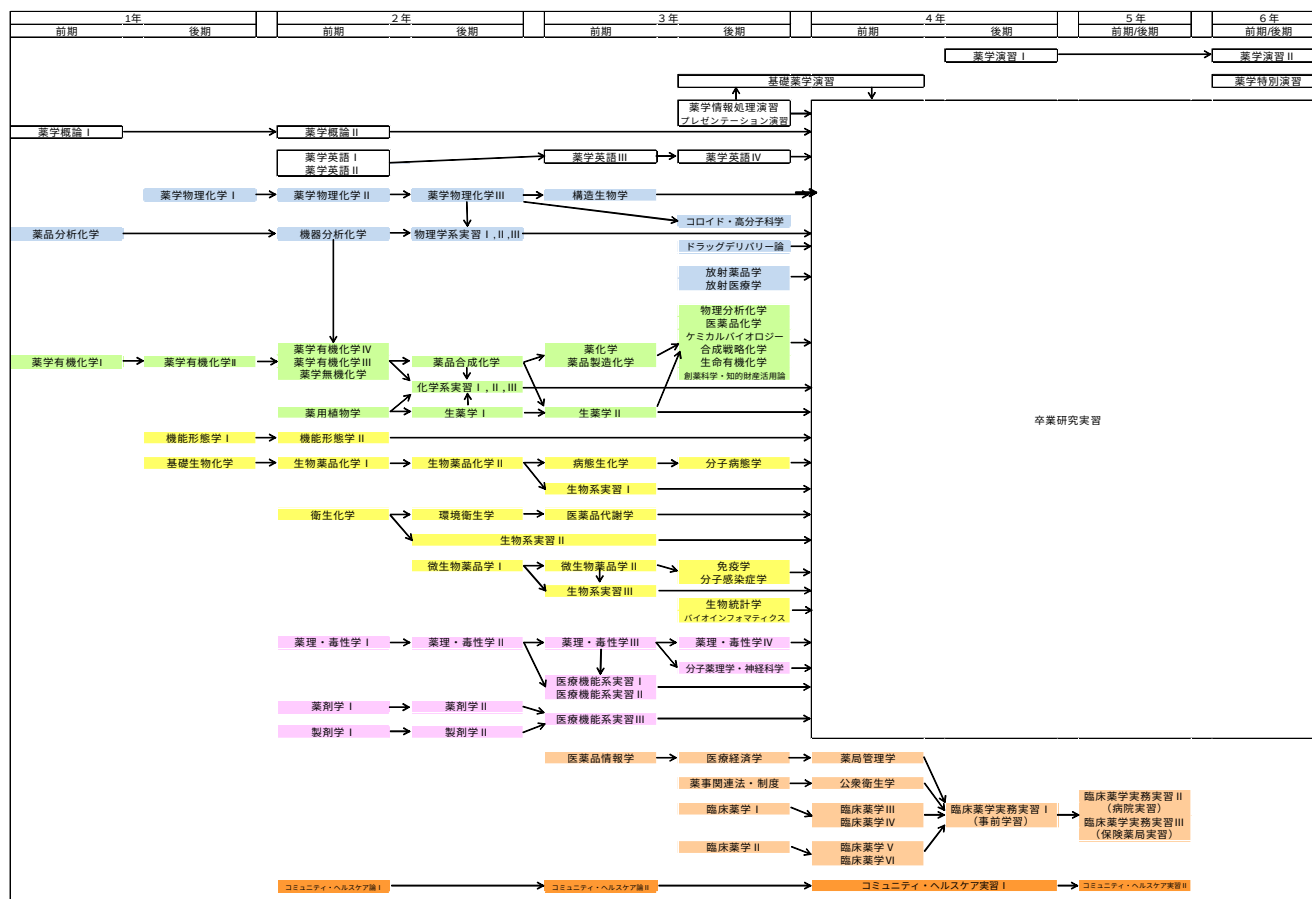
実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(1) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	医療経済学	薬局管理学 臨床薬学実務実習Ⅰ	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		臨床薬学実務実習Ⅰ	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	医療経済学	薬局管理学 臨床薬学実務実習Ⅰ	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		臨床薬学実務実習Ⅰ	
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	医療経済学	薬局管理学 臨床薬学実務実習Ⅰ	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		薬局管理学 臨床薬学実務実習Ⅰ	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		臨床薬学Ⅵ 臨床薬学実務実習Ⅰ	
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)			
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		臨床薬学実務実習Ⅰ	
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		臨床薬学実務実習Ⅰ	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)			
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)			
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)			
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)			

(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
2.	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		
《疑義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)	臨床薬学実務実習Ⅰ	
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		
9.	疑義照会の流れを説明できる。		
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
《製剤化の基礎》			
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		
《注射剤と輸液》			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)		
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		
《消毒薬》			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		

（５）リスクマネジメント			
《安全管理に注目する》			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		
3.	院内感染の回避方法について説明できる。		
《副作用に注目する》			
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
《リスクマネジメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）		
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）		
（６）服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）		
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）		
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）		
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		
《患者情報の重要性に注目する》			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	臨床薬学実務実習Ⅰ	
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）	臨床薬学実務実習Ⅰ	
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		
（７）事前学習のまとめ			
		臨床薬学実務実習Ⅰ	

(基礎資料4) カリキュラムマップ

- [注] 1 任意（大学独自）の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。
- 2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
コミュニケーション英語1	1			○	○
コミュニケーション英語2	1			○	○
総合英語1	1	○	○	○	○
総合英語2	1	○	○	○	○
応用英語1	2	○	○	○	○
応用英語2	2	○	○	○	○
ドイツ語	1	○	○	○	○
フランス語	1	○	○	○	○
中国語	1	○		○	○
薬学英语Ⅰ	2	○	○	○	○
薬学英语Ⅱ	2	○	○	○	○
薬学英语Ⅲ	3	○	○	○	○
薬学英语Ⅳ	3	○		○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年度事前学習日程表

20140901版

第1週

時限	時間	月日 曜日 日数	9月29日 月	9月30日 火	10月1日 水 1	10月2日 木 2	10月3日 金 3
1	9:00～10:30				S101講義 薬剤師の使命、倫理	S103SGD 薬剤師が行う業務	S106SGD 能力や責任範囲の限界、他の医療従事者との連携
2	10:40～12:10				S102講義 薬剤師の位置づけと役割、保険調剤	S103SGD 薬剤師が行う業務	S201講義 処方箋の法的位置づけと機能、処方オーダーリング
3	13:00～14:30				S107講義 医薬分業の仕組みと意義	S105講義 病院専門薬剤師の現状	S202講義 処方せんの種類、特徴、必要記載事項
4	14:40～16:10				S104講義 医療チームの構成	S107SGD 能力や責任範囲の限界、他の医療従事者との連携	S203、S204演習 調剤の法的根拠、処方監査、不適切な処方せん処置

第2週

時限	時間	月日 曜日 日数	10月6日 月 4	10月7日 火 5	10月8日 水 6	10月9日 木 7	10月10日 金 8
1	9:00～10:30		S205講義 用法・用量および投与計画	S101～S107 クリッカー 試験	S203、S204SGD 処方監査、処置	S209講義 服薬指導の意義	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査
2	10:40～12:10		S205演習 用法・用量および投与計画	S401講義 医療系情報の実際	S203、S204SGD 処方監査、処置	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査
3	13:00～14:30		S207演習 用法・用量および投与計画	S206講義 患者に適した情報の選択	S203、S204SGD 処方監査、処置	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査
4	14:40～16:10		S208演習 用法・用量および投与計画	S208演習 文献情報検索演習 I	S203、S204SGD 処方監査、処置	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査

第3週

時限	時間	月日 曜日 日数	10月14日 月 9	10月15日 火 9	10月16日 水 10	10月17日 木 11	10月18日 金 12
1	9:00～10:30		祝日	S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査	S201～S211 クリッカー試験	S301SGD 処方検討	S304演習 処方検討発表 討論
2	10:40～12:10			S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査	S211講義 処方箋鑑査の意義とその必要性	S302SGD 処方検討	S304演習 処方検討発表・討論
3	13:00～14:30			S210実習 処方せん監査、計数調剤計量調剤、鑑査	S211SGD 処方箋鑑査の意義とその必要性	S303SGD 処方検討	S304演習 処方せんの問題点を解決するための連携
4	14:40～16:10			予備時間	S211SGD 処方箋鑑査の意義とその必要性	S303SGD 処方検討	S304演習 処方せんの問題点を解決するための連携

第4週

時限	時間	月日 曜日 日数	10月20日 月 13	10月21日 火 14	10月22日 水 15	10月23日 木 16	10月24日 金 17
1	9:00～10:30		S305講義 医薬品の効果、副作用、相互作用、疑義照会	S306オリジナル 疾患別処方例の収集と発表	S407講義 放射性医薬品	S301～S306 クリッカー試験	S404講義 血漿分画製剤、輸血用血液製剤
2	10:40～12:10		S305講義 医薬品の効果、副作用、相互作用、疑義照会	S306オリジナル 疾患別処方例の収集と発表	S403講義 毒薬・劇薬、麻薬・向精神薬	S304講義 服薬指導 疑義照会	S601 演習 服薬指導入門
3	13:00～14:30		S306実習 医薬品の効果、副作用、相互作用、疑義照会	S306オリジナル 疾患別処方例の収集と発表	S406実習 毒薬・劇薬、麻薬、生物製剤、血漿分画製剤	S304講義 服薬指導 疑義照会	S602 演習 服薬指導入門
4	14:40～16:10		S306実習 医薬品の効果、副作用、相互作用、疑義照会	S306オリジナル 疾患別処方例の収集と発表	S302実習 配合変化	S304演習 服薬指導 疑義照会	S 6 0 6オリジナル 生活指導P B L ①

第5週

時限	時間	月日 曜日 日数	10月27日 月 18	10月28日 火 19	10月29日 水 20	10月30日 木 21	10月31日 金 22
1	9:00～10:30		S503講義 院内感染の回避方法	S401～S407 クリッカー試験	S412実習 注射の配合変化	S411実習 無菌操作、ケミカハザード回避	S411実習 無菌操作、ケミカハザード回避
2	10:40～12:10		S409講義 薬局製剤とOTC	S408講義 院内製剤	S401講義 調剤総合	S411実習 無菌操作、ケミカハザード回避	S411実習 無菌操作、ケミカハザード回避
3	13:00～14:30		S405講義 生物製剤	予備時間	S410実習 (院内/自家) 製剤実習	S411実習 無菌操作、ケミカハザード回避	S411実習 無菌操作、ケミカハザード回避
4	14:40～16:10		S413講義 輸液と経管栄養、体内電解質の過不足	S402講義 剤形の安定性	S413実習 調剤総合実習	S411実習 無菌操作、ケミカハザード回避	S606オリジナル 生活指導P B L ②

第6週

時限	時間	月日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日
		曜日	月	火	水	木	金
		日数		23	24	25	
1	9:00～10:30		祝日	S408～S414 クリッカー試験	S414、S503講義 消毒薬 院内感染防止	S504講義 フィジカルアセスメントと 薬剤師	予備日
2	10:40～12:10			S501講義 事故事例	S403講義 抗がん剤の薬学的管理	S504演習 フィジカルアセスメント演習	
3	13:00～14:30			S502講義 誤りを生じやすい投薬例	S403講義 抗がん剤の薬学的管理	S505演習 フィジカルアセスメント演習	
4	14:40～16:10			S506講義 誤りを生じやすい調剤例、 リスクの回避	S403講義 抗がん剤の薬学的管理	S505演習 フィジカルアセスメント演習	

第7週

時限	時間	月日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
		曜日	月	火	水	木 PBL	金
		日数	26	27	28	29	30
1	9:00～10:30		S506SGD 誤りを生じやすい調剤例、 リスクの回避	S 606オリジナル 病棟での注射薬の取り扱い	S501～S507 クリッカー試験	S507SGD 事故が起こった場合の対処 方法	S604演習 OTC患者対応
2	10:40～12:10		S506SGD 誤りを生じやすい調剤例、 リスクの回避	S 606オリジナル 病棟での注射薬の取り扱い	S601講義 患者の権利、自己決定権	S507SGD 事故が起こった場合の対処 方法	S605 演習 OTC患者対応
3	13:00～14:30		S506SGD 誤りを生じやすい調剤例、 リスクの回避	S 606オリジナル 病棟での注射薬の取り扱い	S602講義 障害のある患者対応	S602ロールプレイ 服薬指導 (SP参加)	S603ロールプレイ 服薬指導 (SP参加)
4	14:40～16:10		S606オリジナル 生活指導 P B L ③	S 606オリジナル 病棟での注射薬の取り扱い	S602講義 障害のある患者対応	S602ロールプレイ 服薬指導 (SP参加)	S603ロールプレイ 服薬指導 (SP参加)

第8週

時限	時間	月日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日	11月21日
		曜日	月	火	水	木 PBL	金
		日数	31	32	33	34	35
1	9:00～10:30		S605SGD 患者情報	S603ロールプレイ 服薬指導	S507～S606 クリッカー試験	S701実習 総合実習	事前学習最終試験（ペーパー試験）
2	10:40～12:10		S605SGD 患者情報	S603ロールプレイ 服薬指導	S701実習 総合実習	S701実習 総合実習	S 6 0 6 オリジナル 生活指導 P B L 最終
3	13:00～14:30		S606SGD 服薬指導 アドバンスト	S606ロールプレイ 服薬指導技能態度 (SP参加)	S701実習 総合実習	S701実習 総合実習	
4	14:40～16:10		S607SGD 服薬指導 アドバンスト	S606ロールプレイ 服薬指導技能態度 (SP参加)	S701実習 総合実習	S701実習 総合実習	

第9週

時限	時間	月日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日	11月28日
		曜日	月	火	水	木	金
		日数	36	37	38	39	
1	9:00～10:30		S701実習 総合実習	S701実習 総合実習	予備時間	S701実習 総合実習	
2	10:40～12:10		S701実習 総合実習	S701実習 総合実習		S701実習 総合実習	
3	13:00～14:30		S701実習 総合実習 (SP参加)	S701実習 総合実習 (SP参加)	S701実習 総合実習 (SP参加)	予備時間	
4	14:40～16:10		S701実習 総合実習 (SP参加)	S701実習 総合実習 (SP参加)	S701実習 総合実習 (SP参加)		

[注]

- 4 年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
- 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
- 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 7) 学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成22年度 入試（21年度 実施）	平成23年度 入試（22年度 実施）	平成24年度 入試（23年度 実施）	平成25年度 入試（24年度 実施）	平成26年度 入試（25年度 実施）	平成27年度 入試（26年度 実施）	募集定員数に 対する入学者 数の比率（6 年間の平均）
薬 学 部	薬 学 科	一般入試	受験者数	484	620	638	679	760	632	
			合格者数	117	130	115	124	92	89	
			入学者数(A)	56	63	49	64	45	47	
			募集定員数(B)	44	44	44	44	44	44	
			A/B*100(%)	127	143	111	145	102	107	
		公募推薦入試A (センター試験を 課さない)	受験者数	31	43	42	71	57	67	
			合格者数	6	6	9	9	7	9	
			入学者数(A)	6	6	9	9	7	9	
			募集定員数(B)	6	6	6	6	6	6	
			A/B*100(%)	100	100	150	150	117	150	
		公募推薦入試B (センター試験を 課す)	受験者数	28	47	57	63	85	83	
			合格者数	10	10	12	13	14	13	
			入学者数(A)	10	10	12	13	14	13	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
			A/B*100(%)	100	100	120	130	140	130	
		留学生入試	受験者数	1	4	2	0	1	1	
			合格者数	1	1	2	0	1	0	
			入学者数(A)	1	0	2	0	1	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	－	－	－	－	－	－	
学 科 計			受験者数	544	714	739	813	903	783	1.24
			合格者数	134	147	138	146	114	111	
			入学者数(A)	73	79	72	86	67	69	
			募集定員数(B)	60	60	60	60	60	60	
			A/B*100(%)	122	132	120	143	112	115	

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料 8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な 6 年制薬学科の教員数 * 1	22 名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	4 名

* 1 大学設置基準 第 2 条別表第一、イ備考四

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						
語学教育						
薬学基礎教育	16	13	12	11		
専門薬学教育						
実務実習教育	3(3)	1(1)	2(2)			括弧内は実務家教員数
小計	19(3)	14(4)	14(2)	11		
専任教員数	58(6)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連			1	8	2	衛生技師
法人業務関連						
小計						
事務職員数	9					

- 1 主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、（ ）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6(2)=6名のうち2名が特任）
- 3 該当する場合は、（ ）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員）
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員（例えば、いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教 授		2	11	6			19
		3.4%	19.0%	10.3%			32.8%
准教授		1	2	9	2		14
		1.7%	3.4%	15.5%	3.4%		24.1%
専任講師		1		8(3)	5		14(3)
		1.7%		13.8%	8.6%		24.1%
助教			1(1)		6(1)	4	11(2)
			1.7%		10.3%	6.9%	19.0%
合計		4	14(1)	23(3)	13(1)	4	58(5)
		6.9%	24.1%	39.7%	22.4%	6.9%	100.0%
定年年齢	65	歳					

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。(例示：2(1)＝2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。(例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。) また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)
 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

教員一覧

分野名(講座名)	教授	准教授	講師	助教
薬化学	中川 秀彦			家田 直弥 川口 充康
精密有機反応学	樋口 恒彦	梅澤 直樹		加藤 信樹
薬品合成化学	中村 精一	近藤 和弘		山越 博幸
機能分子構造学		池田 慎一	白井 直洋	
生体超分子システム解析学	平嶋 尚英	田中 正彦	鈴木 亮	
コロイド・高分子物性学	山中 淳平	奥菌 透	豊玉 彰子	
生命分子構造学		佐藤 匡史	矢木 宏和	
分子生物薬学	今川 正良	長田 茂宏	西塚 誠	
薬物送達学	尾関 哲也		田上 辰秋	
マイクロ RNA ゲノム創薬学		藤井 陽一		
生薬学	牧野 利明		寺坂 和祥	
衛生化学	藤原 俊伸	瀧井 猛将	伊藤 佐生智	
遺伝情報学	星野 真一		細田 直	
細胞分子薬効解析学	今泉 祐治	山村 壽男		鈴木 良明
病態生化学	服部 光治		築地 仁美	河野 孝夫
薬物動態制御学	湯浅 博昭			太田 欣哉
病態解析学		樋本 紀夫	岩城 壮一郎	
医薬品代謝解析学	林 秀敏	井上 靖道		伊藤 友香
神経薬理学	糸 和彦	大澤 匡弘		山本 昇平
医薬品安全性評価学	頭金 正博			
病院薬剤学	木村 和哲		前田 康博	内藤 敏子 堀田 祐志
臨床薬学	鈴木 匡 松永 民秀	中村 克徳	岩尾 岳洋 菊池 千草	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏 名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬化学	教授	なかわが ひでひこ 中川 秀彦	男	48	2004.5.1	2013.4.1	創薬と生命	0.20						0.20	0.00	東京大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)		
								薬学有機化学Ⅰ	1.50						1.50	0.00			
								薬化学	1.50						1.50	0.00			
								プレゼンテーション演習		0.60					0.00	0.60			
								創薬科学・知的財産活用論		0.35					0.00	0.35			
								医薬品化学		0.60					0.00	0.60			
								化学系実習Ⅰ					1.24		0.00	1.24			
								薬学演習Ⅰ			0.10				0.00	0.10			
								計	3.20	1.55	0.00	0.10	0.00	1.24	3.20	2.89			
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬化学	助教	いえだ なおや 家田 直弥	男	28	2012.7.1	2012.7.1	化学系実習Ⅰ						1.24	0.00	1.24	名古屋市立大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 修(薬)		
								医薬品化学Ⅳ						0.10	0.00	0.10			
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.34	0.00	1.34			
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬化学	助教	かわぐち みつやす 川口 充康	男	31	2014.4.1	2014.4.1	化学系実習Ⅰ						1.24	0.00	1.24	東京大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)		
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.24	0.00	1.24			
生命薬科学科 (兼薬学科)	精密有機反応学	教授	ひぐち つねひこ 樋口 恒彦	男	57	2000.10.1	2000.10.1	環境と薬学	0.10						0.10	0.00	東京大学 薬学研究科 博士課程 中退 薬博		
								薬学概論Ⅰ	0.10						0.10	0.00			
								薬学無機化学	0.75						0.75	0.00			
								薬品製造化学	0.50						0.50	0.00			
								ケミカルバイオロジー		0.65					0.00	0.65			
								物理分析化学		0.20					0.00	0.20			
								薬学英語Ⅳ		0.40					0.00	0.40			
								化学系実習Ⅰ-Ⅲ					1.40		0.00	1.40			
								計	1.45	1.25	0.00	0.00	0.00	1.40	1.45	2.65			
生命薬科学科 (兼薬学科)	精密有機反応学	准教授	うめざわ なおき 梅澤 直樹	男	42	2002.4.1	2007.6.1	薬品製造化学	0.50						0.50	0.00	東京大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)		
								環境と薬学	0.10						0.10	0.00			
								薬学有機化学Ⅱ		1.50					0.00	1.50			
								物理分析化学		0.20					0.00	0.20			
								ケミカルバイオロジー		0.10					0.00	0.10			
								化学系実習Ⅰ					0.18		0.00	0.18			
								化学系実習Ⅱ					0.62		0.00	0.62			
								化学系実習Ⅲ					0.62		0.00	0.62			
								計	0.60	1.80	0.00	0.00	0.00	1.42	0.60	3.22			
生命薬科学科 (兼薬学科)	精密有機反応学	助教	かとう のぶき 加藤 信樹	男	39	2006.4.1	2006.4.1	生命薬科学演習			0.10				0.10	0.00	東北大学 理学研究科 博士後期課程 修了 博(理)		
								化学系実習Ⅰ					0.20		0.00	0.20			
								化学系実習Ⅱ					0.80		0.00	0.80			
								化学系実習Ⅲ					0.82		0.00	0.82			
								計	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	1.82	0.10	1.82			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬品合成化学	教授	なかむら せいいち 中村 精一	男	47	2010.4.1	2010.4.1	環境と薬学	0.10						0.10	0.00	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博（薬）		
								薬学概論Ⅰ	0.10						0.10	0.00			
								薬学有機化学Ⅲ	1.50						1.50	0.00			
								薬品合成化学		1.50					0.00	1.50			
								合成戦略化学		0.75					0.00	0.75			
								生命薬科学演習			0.30				0.30	0.00			
								基礎薬学演習				0.30			0.00	0.30			
								化学系実習Ⅱ					1.87		0.00	1.87			
								計	1.70	2.25	0.30	0.30	0.00	1.87	2.00	4.42			
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬品合成化学	准教授	こんどう かずひろ 近藤 和弘	男	48	2002.9.1	2004.9.1	プレゼンテーション演習		0.15					0.00	0.15	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博（薬）		
								薬学演習Ⅰ				0.20			0.00	0.20			
								計	0.00	0.15	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.35			
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬品合成化学	助教	やまこし ひろゆき 山越 博幸	男	32	2013.3.1	2013.3.1	化学系実習Ⅱ						1.87	0.00	1.87	東北大学 薬学研究科 博士課程 修了 博（薬）		
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）						0.03	0.00	0.03			
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.90	0.00	1.90			
薬学科 (兼生命薬科学科)	機能分子構造学	准教授	いけだ しんいち 池田 慎一	男	48	1993.4.1	1997.4.1	環境と薬学	0.10						0.10	0.00	大阪大学 工学研究科 博士課程 修了 博（工）		
								薬学有機化学Ⅳ	0.50						0.50	0.00			
								薬品製造化学	0.50						0.50	0.00			
								物理分析化学		0.65					0.00	0.65			
								生命有機化学		0.40					0.00	0.40			
								化学系実習Ⅰ					1.60		0.00	1.60			
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）					0.10		0.00	0.10			
								計	1.10	1.05	0.00	0.00	0.00	1.70	1.10	2.75			
薬学科 (兼生命薬科学科)	機能分子構造学	講師	しらい なおひろ 白井 直洋	男	64	1974.4.1	1989.4.1	くすり社会		0.10					0.00	0.10	名古屋市立大学 薬学研究科 修士課程 中退 薬博		
								薬学有機化学Ⅳ	1.00						1.00	0.00			
								生命有機化学		0.30					0.00	0.30			
								物理分析化学		0.50					0.00	0.50			
								物理系実習Ⅰ					0.07		0.00	0.07			
								化学系実習Ⅰ（生命薬科学科）					1.33		0.00	1.33			
								化学系実習Ⅰ（薬学科）					1.07		0.00	1.07			
								化学系実習Ⅱ（薬学科）					0.27		0.00	0.27			
								基礎薬学演習			0.30				0.00	0.30			
								計	1.00	0.90	0.00	0.30	0.00	2.74	1.00	3.94			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	科目名	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号
									毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
生命薬科学科 (兼薬学科)	薬物送達学	教授	おぜき てつや 尾関 哲也	男	47	2009.6.1	2009.6.1	製剤学Ⅰ	0.80						0.80	0.00	東京薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）	
								製剤学Ⅱ		0.60					0.00	0.60		
								放射薬品学		0.10					0.00	0.10		
								放射医療学		0.10					0.00	0.10		
								創薬と生命	0.10					0.10	0.00			
								ドラッグデリバリー論		0.20				0.00	0.20			
								生命薬科学演習（研究所見学引率）			1.00			0.00	1.00			
								医療機能系実習Ⅲ				0.53		0.53	0.00			
								計	0.90	1.00	0.00	1.00	0.53	0.00	1.43	2.00		1.72
生命薬科学科 (兼薬学科)	薬物送達学	講師	たがみ たつあき 田上 辰秋	男	37	2013.4.1	2013.4.1	製剤学		0.30				0.00	0.30	徳島大学 薬科学研究科 博士課程 修了 博（薬）		
								ドラッグデリバリー論		0.60				0.00	0.60			
								薬学演習Ⅰ			0.08			0.00	0.08			
								薬学演習Ⅱ			0.08			0.00	0.08			
								医療機能系実習Ⅲ				0.53		0.53	0.00			
								基礎薬学演習			0.15			0.00	0.15			
								計	0.00	0.90	0.00	0.30	0.53	0.00	0.53		1.20	0.87
薬学科 (兼生命薬科学科)	マイクロRNAゲノム創薬学	准教授	ふじい ろばーとよういち 藤井 ロバート陽一	男	58	1999.7.1	2007.6.1	創薬と生命	0.10					0.10	0.00	北海道大学 獣医学研究科 修士課程 修了 博（獣医）		
								臨床薬学Ⅲ	0.10					0.10	0.00			
								分子病態学		0.75				0.00	0.75			
								計	0.20	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20		0.75	0.48
薬学科 (兼生命薬科学科)	生薬学	教授	まきの としあき 牧野 利明	男	41	2005.4.1	2014.4.1	薬学概論Ⅰ	0.10					0.10	0.00	京都大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）		
								薬用植物学	0.75					0.75	0.00			
								生薬学Ⅱ	1.00					1.00	0.00			
								臨床薬学Ⅴ	1.50					1.50	0.00			
								薬学演習Ⅰ			0.10			0.10	0.00			
								生薬学Ⅰ		1.50				0.00	1.50			
								基礎薬学演習				0.90		0.00	0.90			
								くすり和社会		0.10				0.00	0.10			
								薬学演習Ⅱ				0.10		0.00	0.10			
								化学系実習Ⅲ					0.93	0.00	0.93			
								計	3.35	1.60	0.10	1.00	0.00	0.93	3.45		3.53	3.49
薬学科 (兼生命薬科学科)	生薬学	講師	てらさか かずよし 寺坂 和祥	男	38	2005.4.1	2014.6.1	環境と薬学	0.10					0.10	0.00	京都大学 生命科学研究所 博士後期課程 修了 博（生命科学）		
								生薬学Ⅱ	0.50					0.50	0.00			
								化学系実習Ⅲ					0.93	0.00	0.93			
								計	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.93	0.60		0.93	0.77

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科 (兼生命薬科学科)	衛生化学	教授	ふじわら としのぶ 藤原 俊伸	男	42	2013.4.1	2013.4.1	衛生化学	0.50	0.10 0.40			0.30 0.10	0.53 1.07	0.50	0.00	東京大学 医科学研究所 博士課程 修了 博（医）		
								免疫学							0.10	0.10			
								環境衛生学							0.40	0.40			
								臨床薬学Ⅳ							0.30	0.30			
								公衆衛生学							0.10	0.10			
								生物系実習Ⅱ							0.53	1.07			
								計	0.50	0.50	0.00	0.40	0.53	1.07	1.93	1.97		1.95	
薬学科 (兼生命薬科学科)	衛生化学	准教授	たきい たけまさ 瀧井 猛将	男	50	1992.5.1	2008.6.1	環境と薬学	0.10	0.50 0.30			0.05 0.10	0.53 1.07	0.10 0.05 0.05	0.00 0.00 0.05	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 中退 博（薬）		
								衛生化学	0.10									0.10	0.00
								環境衛生学										0.00	0.50
								薬学英語Ⅲ	0.40									0.40	0.00
								免疫学										0.00	0.30
								公衆衛生学	0.80									0.80	0.00
								臨床薬学Ⅳ	0.20									0.20	0.00
								薬学演習Ⅰ										0.00	0.05
								薬学演習Ⅱ										0.00	0.10
								物理系実習Ⅰ										0.00	0.05
								生物系実習Ⅱ										0.53	1.07
								計	1.60	0.80	0.00	0.15	0.53	1.12	2.13	2.07		2.10	
薬学科 (兼生命薬科学科)	衛生化学	講師	いとう さおとも 伊藤 佐生智	男	43	2009.1.1	2011.4.1	衛生化学	0.70	0.30 0.60		0.07 0.07	0.53 1.07	0.70 0.30 0.60 0.07 0.07 0.53	0.00	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）		
								免疫学							0.30	0.30			
								環境衛生学							0.60	0.60			
								薬学演習Ⅰ							0.07	0.07			
								薬学演習Ⅱ							0.07	0.07			
								生物系実習Ⅱ							0.53	1.07		0.53	1.07
								計	0.70	0.90	0.00	0.13	0.53	1.07	2.26	2.10		2.18	
薬学科 (兼生命薬科学科)	遺伝情報学	教授	ほしの しんいち 星野 真一	男	52	2005.4.1	2005.4.1	創薬と生命	0.10	0.90 0.30				0.07	0.10	0.00	東京大学 薬学系研究科 博士課程 中退 博（薬）		
								生物薬品化学Ⅰ	1.40						1.40	0.00			
								生物薬品化学Ⅱ							0.00	0.90			
								機能形態学Ⅰ							0.00	0.30			
								臨床薬学Ⅲ	0.20						0.20	0.00			
								生物系実習Ⅰ							0.07	0.07		0.00	
								計	1.70	1.20	0.00	0.00	0.07	0.00	1.77	1.20		1.49	
薬学科 (兼生命薬科学科)	遺伝情報学	講師	ほそだ なお 細田 直	男	40	2006.6.1	2011.4.1	生物薬品化学Ⅰ	0.10	0.60 0.10		0.10 0.10	1.87		0.10	0.00	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博（薬）		
								生物薬品化学Ⅱ							0.00	0.60			
								機能形態学Ⅰ							0.00	0.10			
								薬学演習Ⅰ							0.00	0.10			
								薬学演習Ⅱ							0.00	0.10			
								生物系実習Ⅰ							1.87	1.87		0.00	
								生命薬科学研究入門							0.20	0.20		0.00	
								計	0.10	0.70	0.20	0.20	1.87	0.00	2.17	0.90		1.54	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号						
								科目名	毎週授業時間数														
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計								
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
薬学科 (兼生命薬科学科)	細胞分子薬効解析学	教授	いまいずみ ゆうじ 今泉 祐治	男	61	1978.4.1	1997.1.1	創薬と生命	0.10	0.10	0.13					0.10	0.00	東京大学 薬学系大学院 修士課程 修了 薬博					
								くすりと社会								0.00	0.10						
								薬学概論Ⅰ	0.10												0.10	0.00	
								生命薬科学研究入門													0.13	0.00	
								機能形態学Ⅰ		0.40					0.00	0.40							
								薬理・毒性学Ⅰ	1.50						1.50	0.00							
								臨床薬学Ⅱ（4年次前期）	0.30						0.30	0.00							
								臨床薬学Ⅱ（3年次後期）		0.50					0.00	0.50							
								医療機能系実習Ⅰ				1.11			1.11	0.00							
								計	2.00	1.00	0.13	0.00	1.11	0.00	3.24	1.00	2.12						
薬学科 (兼生命薬科学科)	細胞分子薬効解析学	准教授	やまむら ひさお 山村 寿男	男	41	2005.4.1	2012.4.1	創薬と生命	0.10	0.13						0.10	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）					
								生命薬科学研究入門													0.13	0.00	
								機能形態学Ⅱ	0.20													0.20	0.00
								薬理・毒性学Ⅲ	1.50													1.50	0.00
								分子薬理学・神経科学		0.10					0.00	0.10							
								臨床薬学Ⅱ（4年次前期）	0.20						0.20	0.00							
								臨床薬学Ⅱ（3年次後期）		0.60					0.00	0.60							
								薬学演習Ⅰ			0.10				0.00	0.10							
								薬学演習Ⅱ			0.10				0.00	0.10							
								基礎薬学演習			0.40				0.00	0.40							
								医療機能系実習Ⅰ				1.11			1.11	0.00							
								計	2.00	0.70	0.13	0.60	1.11	0.00	3.24	1.30	2.27						
薬学科 (兼生命薬科学科)	細胞分子薬効解析学	助教	すずき よしあき 鈴木 良明	男	28	2013.4.1	2013.4.1	生命薬科学研究入門		0.13						0.13	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）					
								分子薬理学・神経科学								0.20					0.00	0.20	
								医療機能系実習Ⅰ											1.11		1.11	0.00	
								計	0.00	0.20	0.13	0.00	1.11	0.00	1.24	0.20	0.72						
薬学科 (兼生命薬科学科)	病態生化学	教授	はっとり みつはる 服部 光治	男	46	2004.4.1	2009.4.1	病態生化学	0.75	1.50	1.00					0.75	0.00	東京大学 薬学系研究科 博士課程 中退 博（薬）					
								基礎生物化学													0.00	1.50	
								生命薬科学研究入門	0.20													1.20	0.00
								くすりと社会								0.20						0.00	0.20
								薬学演習Ⅰ			0.10				0.00	0.10							
								機能形態学Ⅱ	0.20						0.20	0.00							
								薬学概論Ⅱ	0.10						0.10	0.00							
								計	1.25	1.70	1.00	0.10	0.00	0.00	2.25	1.80	2.03						
薬学科 (兼生命薬科学科)	病態生化学	講師	ついでひとみ 築地 仁美	女	42	2014.4.1	2014.4.1	くすりと社会		0.20						0.00	0.20	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博（薬）					
								計	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.10						
薬学科 (兼生命薬科学科)	病態生化学	助教	こうの たかお 河野 孝夫	男	32	2010.4.1	2010.4.1	生命薬科学研究入門		0.27		0.10	0.10			0.27	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）					
								基礎薬学演習													0.00	0.10	
								薬学演習Ⅱ													0.00	0.10	
								計	0.00	0.00	0.27	0.20	0.00	0.00	0.27	0.20	0.24						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	科目名	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号						
									毎週授業時間数															
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計									
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬物動態制御学	教授	ゆあさ ひろあき	男	53	1986.4.1	2000.7.1	環境と薬学	0.10	0.10					0.10	0.00	東京大学 薬学系研究科 博士課程 中退 薬博							
			くすりと社会					1.50	1.50									0.53	0.20	0.10	0.00			
			薬学概論Ⅱ																			0.10	0.00	
			薬剤学Ⅰ							1.50	0.00													
			薬剤学Ⅱ							0.00	1.50													
			医療機能系実習Ⅲ							0.53	0.00													
			臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）							0.00	0.20													
			生命薬科学演習					0.38	0.00															
計	1.70	1.60	0.38	0.00	0.53	0.20	2.61	1.80	2.20															
薬学科 (兼生命薬科学科)	薬物動態制御学	助教	おおた きんや	男	36	2006.10.1	2006.10.1	臨床薬学Ⅵ	0.40	0.20		0.10	0.10	0.53	0.40	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 中退 博（薬）							
			ドラッグデリバリー論					0.40	0.20									0.00	0.20	0.53	0.00	0.93	0.40	0.67
			薬学演習Ⅰ																					
			薬学演習Ⅱ							0.00	0.10													
			医療機能系実習Ⅲ							0.53	0.00													
			計							0.40	0.20	0.00	0.20	0.53	0.00	0.93								
薬学科 (兼生命薬科学科)	病態解析学	准教授	はぜもと のりお	男	64	1993.1.1	1993.1.1	製剤学Ⅰ	0.75	0.75					0.75	0.00	北海道大学 薬学研究科 修士課程 修了 薬博							
			製剤学Ⅱ					0.00	0.75															
			計					0.75	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.75	0.75								
薬学科 (兼生命薬科学科)	病態解析学	講師	いわき そういちろう	男	40	2007.8.1	2012.11.1	環境と薬学	0.10	0.40		0.10		0.10	0.10	0.00	北海道大学 薬学研究科 博士課程 修了 博（薬）							
			機能形態学Ⅱ					0.60	0.00															
			臨床薬学Ⅳ					0.10	0.00															
			臨床薬学Ⅱ					0.00	0.40															
			薬学演習Ⅰ					0.00	0.10															
			臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）					0.10	0.00															
			計					0.80	0.40	0.00	0.10	0.00	0.10	0.80	0.60	0.70								

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	科目名	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号
									毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科 (兼生命薬科学科)	医薬品代謝解析学	教授	はやし ひでとし 林 秀敏	男	55	1990.4.1	2008.4.1	環境と薬学	0.10							0.10	0.00	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 薬博
								くすりと社会		0.10						0.00	0.10	
								医薬品代謝学	1.50							1.50	0.00	
								免疫学		0.40						0.00	0.40	
								放射医療学		0.43						0.00	0.43	
								臨床薬学Ⅰ	0.90	1.10						0.90	1.10	
								公衆衛生学	0.20							0.20	0.00	
								生命薬科学研究入門			0.30					0.30	0.00	
								生命薬科学演習			0.20					0.20	0.00	
								薬学演習Ⅱ			0.20					0.00	0.20	
								生物系実習Ⅰ				0.20				0.20	0.00	
								生物系実習Ⅱ				0.22				0.22	0.00	
								生物系実習Ⅲ				0.11				0.11	0.00	
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）					0.10			0.00	0.10	
								計	2.70	2.03	0.50	0.20	0.53	0.10	3.73	2.33	3.03	
薬学科 (兼生命薬科学科)	医薬品代謝解析学	准教授	いのうえ やすみち 井上 靖道	男	37	2011.2.1	2012.11.1	放射医療学		0.10					0.00	0.10	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）	
								免疫学		0.10					0.00	0.10		
								薬学演習Ⅰ			0.10				0.00	0.10		
								生物系実習Ⅰ				0.27			0.27	0.00		
								生物系実習Ⅱ				0.40			0.40	0.00		
								生物系実習Ⅲ				0.13			0.13	0.00		
								計	0.00	0.20	0.00	0.10	0.80	0.00	0.80	0.30		0.55
薬学科 (兼生命薬科学科)	医薬品代謝解析学	助教	いとう ゆか 伊藤 友香	女	34	2009.8.1	2009.8.1	生物系実習Ⅰ					0.20		0.20	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）	
								生物系実習Ⅱ					0.20		0.20	0.00		
								生物系実習Ⅲ					0.13		0.13	0.00		
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.53	0.00	0.53	0.00		0.27

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏 名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	科目名	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号						
									毎週授業時間数															
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計									
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
薬学科 (兼生命薬科学科)	神経薬理学	教授	くめ かずひこ 桑 和彦	男	52	2013.4.1	2013.4.1	創薬と生命	0.10	0.80	0.30	0.90	0.10	0.80	大阪大学 医学系研究科 博士課程 修了 博（医）									
								薬学概論Ⅰ	0.10							0.10								
								臨床薬学Ⅲ	0.30							0.30								
								医療機能系実習Ⅱ								0.90								
								薬理・毒性学Ⅱ																
								薬理・毒性学Ⅳ	0.70															
								基礎薬学演習								0.30								
								機能形態学Ⅰ	0.30															
								分子薬理学・神経科学	0.20															
								計	0.50							2.00	0.00	0.30	0.90	0.00	1.40	2.30	1.85	
薬学科 (兼生命薬科学科)	神経薬理学	准教授	おおさわ まさひろ 大澤 匡弘	男	42	2010.10.1	2010.10.1	薬学英語Ⅲ	0.30	0.70	0.90	0.30	0.00	星薬科大学 薬学研究科 博士課程後期 修了 博（薬）										
								臨床薬学Ⅲ	0.30						0.30									
								医療機能系実習Ⅱ							0.90	0.00								
								薬理・毒性学Ⅱ								0.70								
								薬理・毒性学Ⅳ	0.80							0.80								
								分子薬理学・神経科学	0.20							0.20								
								薬学演習Ⅰ	0.10							0.10								
								くすりと社会	0.10							0.10								
								機能形態学Ⅰ	0.40							0.40								
								計	0.60						2.30	0.00	0.00	0.90	0.00	1.50	2.30	1.90		
薬学科 (兼生命薬科学科)	神経薬理学	助教	やまもと しょうへい 山本 昇平	男	35	2006.4.1	2006.4.1	医療機能系実習Ⅱ		0.10	0.90	0.90	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 中退 博（薬）										
								薬理・毒性学Ⅱ	0.10						0.00	0.10								
								薬理・毒性学Ⅳ	0.10						0.00	0.10								
								計	0.00						0.20	0.00	0.00	0.90	0.00	0.90	0.20	0.55		
薬学科 (兼生命薬科学科)	医薬品安全性評価学	教授	とうきん まさひろ 頭金 正博	男	55	2011.4.1	2011.4.1	くすりと社会	0.20	0.10	0.08	0.08	0.00	0.10	東北大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博（理）									
								公衆衛生学											0.20	0.00				
								薬学演習Ⅰ											0.00	0.08				
								薬学演習Ⅱ											0.00	0.08				
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）								0.01			0.00	0.01				
								生物統計学									0.75			0.00	0.75			
								基礎薬学演習												0.00	0.03			
								計								0.20	0.86	0.00	0.18	0.00	0.00	0.20	1.04	0.62

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	科目名	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号
									毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科 (兼生命薬科学科)	病院薬剤学	教授 (実務家)	きむら かずのり 															

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏 名	性別	年齢	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	科目名	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号
									毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科 (兼生命薬科学科)	臨床薬学	教授 (実務家)	すずき ただし 鈴木 匡	男	56	2009.2.1	2009.2.1	医薬看連携地域参加型学習	0.20	0.20					0.20	0.20	京都大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬博	
								くすりと社会		0.10				0.00	0.10			
								薬学概論Ⅱ	0.30					0.30	0.00			
								医療経済学		0.50				0.00	0.50			
								薬局管理学	0.75				2.80	0.75	0.00			
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）					0.00	2.80				
								薬学演習Ⅰ			0.10			0.00	0.10			
								コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	0.50					0.50	0.00			
								計	1.75	0.80	0.00	0.10	0.00	2.80	1.75	3.70		2.73
薬学科 (兼生命薬科学科)	臨床薬学	教授 (実務家)	まつなが たみひで 松永 民秀	男	56	2009.8.1	2009.8.1	医薬看連携地域参加型学習	0.10						0.10	0.00	九州大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬博	
								薬学概論Ⅰ	0.10						0.10	0.00		
								くすりと社会		0.10					0.00	0.10		
								医薬品情報学	0.75						0.75	0.00		
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）					2.80	0.00	2.80			
								薬学演習Ⅰ			0.10			0.00	0.10			
								創薬と生命	0.10					0.10	0.00			
								臨床薬学Ⅳ	0.20					0.20	0.00			
								計	1.25	0.10	0.00	0.10	0.00	2.80	1.25	3.00		2.13
薬学科 (兼生命薬科学科)	臨床薬学	准教授 (実務家)	なかむら かつのり 中村 克徳	男	45	2012.4. 1	2012.4. 1	臨床薬学Ⅵ	0.80					0.80	0.00	北海道大学 薬研究科 博士課程 修了 博（薬）		
								薬学演習Ⅱ				0.10			0.00		0.10	
								医薬看連携地域参加型学習					1.50	0.40	1.50		0.40	
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）						0.30	0.00		0.30	
								臨床薬学実務実習Ⅱ（病院実習）					1.00	1.40	1.00		1.40	
								基礎薬学演習（PBL）						0.10	0.00		0.10	
								計	0.80	0.00	0.00	0.10	2.50	2.20	3.30		2.30	2.80
薬学科 (兼生命薬科学科)	臨床薬学	講師 (実務家)	いわお たかひろ 岩尾 岳洋	男	36	2010.4.1	2014.4.1	臨床薬学Ⅳ	0.40					0.40	0.00	名古屋市立大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博（薬）		
								基礎薬学演習（PBL）				0.40			0.00		0.40	
								薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10			
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）		0.20			2.80	0.00	3.00			
								臨床薬学実務実習Ⅱ（病院実習）					1.75	3.50	1.75		3.50	
								計	0.40	0.20	0.00	0.50	1.75	6.30	2.15		7.00	4.58
薬学科 (兼生命薬科学科)	臨床薬学	講師 (実務家)	きくち ちぐさ 菊池 千草	女	47	2007.4.1	2008.4.1	臨床薬学Ⅲ	0.10					0.10	0.00	名古屋市立大学 薬学部 卒業 博（薬）		
								くすりと社会		0.10					0.00		0.10	
								基礎薬学演習（PBL）				0.10			0.00		0.10	
								臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）					2.80	0.00	2.80			
								臨床薬学実務実習Ⅱ（病院実習）					0.61	0.56	0.61		0.56	
								（看護学）疾病・治療論Ⅱ	0.20						0.20		0.00	
								計	0.30	0.10	0.00	0.10	0.61	3.36	0.91		3.56	2.24

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数 60 名

5年生の在籍学生数 62 名

6年生の在籍学生数 66 名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	薬化学	3	3	1	2	6
2	精密有機反応学	3	1	2	0	3
3	薬品合成化学	3	1	1	2	4
4	機能分子構造学	2	0	1	2	3
5	生体超分子システム解析学	3	3	2	4	9
6	コロイド・高分子物性学	3	3	4	5	12
7	生命分子構造学	2	2	2	1	5
8	分子生物薬学	3	2	4	4	10
9	薬物送達学	2	4	4	2	10
10	生薬学	2	3	4	4	11
11	衛生化学	3	3	4	4	11
12	遺伝情報学	2	0	4	5	9
13	細胞分子薬効解析学	3	2	1	5	8
14	病態生化学	3	2	4	1	7
15	薬物動態制御学	2	4	4	4	12
16	病態解析学	2	0	0	3	3
17	医薬品代謝解析学	3	4	4	4	12
18	神経薬理学	3	2	3	1	6
19	医薬品安全性評価学	1	4	3	4	11
20	病院薬剤学	4	5	2	2	9
21	臨床薬学教育研究センター	5	6	7	7	20
22	マイクロRNAゲノム創薬学	1	0	0	0	0
23	(未配属)		6	1		7
合 計		58	60	62	66	188

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室 数	総面積 (㎡) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 り面積 (㎡) (A/B)	備 考
田辺通キャンパス (薬学部キャンパス)	講義室	4	901	共用	742	612	1.47	薬学部：全学年 ・宮田ホール，大講義室，講義室1，講義室5
	演習室	8	193	共用	128	612	0.32	薬学部：全学年
	学生自習室	1	45	共用	22	612	0.07	薬学部：全学年
	コンピュータ室	1	156	共用	72	370	0.42	薬学部：1-4年次
	実習室（医療系）	2	286	専用	82	60	4.77	薬学部（薬学科）：4年次 ・模擬薬局，模擬病室
	実習室（基礎系）	2	644	共用	240	255	2.53	薬学部：2・3年次 ・化学系，物理・生物系
滝子（山の畑）キャンパス (全学共通，教養教育施設)	講義室	22	2,361	共用	2,151	840	2.81	全学部（薬・医・看護・芸術工学・経済・人文社会）：1年次
	演習室	6	471	共用	216	840	0.56	全学部（薬・医・看護・芸術工学・経済・人文社会）：1年次

[注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。

2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。

3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（B）」欄にもその数を含めて記入してください。

4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。

5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B \times 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
総合情報センター 田辺通分館	114	652	17.5%	グループ研究室	22	無線LAN LANコンセント プロジェクター	田辺通キャンパス（薬学部・薬学研究科のみ）の学生 学部生数（1年生を含む）：520 大学院生数：132 PC席数（閲覧室）：16
総合情報センター 山の畑分館	245	1,940	12.6%	グループ研究室 （2室） 研究個室（4室）	16	無線LAN LANコンセント（グルー プ研究室）	滝子（山の畑）キャンパスの3学部・研究科の学生 学部生数：1720 大学院生数：220 ＊教養教育の学生（他キャンパスの学部の1年生）も 利用：学生収容定員としては、所属学部のキャンパス の分館の定員扱い PC席数（閲覧室）：12
計	359	2,592	13.9%		38		

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
総合情報センター 田辺通分館	65,121	64,070	643	644	97	8,321	377	660	552	電子ジャーナル キャンパス限定なし： 8017 田辺通キャンパス限定： 6 田辺通・川澄キャンパス限定： 298 (川澄キャンパス： 医学部等)
総合情報センター 山の畑分館	560,569	519,205	4,436	2,183	621	159	8,835	5,616	6,345	電子ジャーナル キャンパス限定なし： 略(上記) 山の畑キャンパス限定： 159
計	625,690	583,275	5,079	2,827	718	8,480	9,212	6,276	6,897	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教員一覧

分野名（講座名）	教授	准教授	講師	助教
薬化学	中川 秀彦			家田 直弥 川口 充康
精密有機反応学	樋口 恒彦	梅澤 直樹		加藤 信樹
薬品合成化学	中村 精一	近藤 和弘		山越 博幸
機能分子構造学		池田 慎一	白井 直洋	
生体超分子システム解析学	平嶋 尚英	田中 正彦	鈴木 亮	
コロイド・高分子物性学	山中 淳平	奥藺 透	豊玉 彰子	
生命分子構造学		佐藤 匡史	矢木 宏和	
分子生物薬学	今川 正良	長田 茂宏	西塚 誠	
薬物送達学	尾関 哲也		田上 辰秋	
マイクロRNAゲノム創薬学		藤井 陽一		
生薬学	牧野 利明		寺坂 和祥	
衛生化学	藤原 俊伸	瀧井 猛将	伊藤 佐生智	
遺伝情報学	星野 真一		細田 直	
細胞分子薬効解析学	今泉 祐治	山村 壽男		鈴木 良明
病態生化学	服部 光治		築地 仁美	河野 孝夫
薬物動態制御学	湯浅 博昭			太田 欣哉
病態解析学		樫本 紀夫	岩城 壮一郎	
医薬品代謝解析学	林 秀敏	井上 靖道		伊藤 友香
神経薬理学	糸 和彦	大澤 匡弘		山本 昇平
医薬品安全性評価学	頭金 正博			
病院薬剤学	木村 和哲		前田 康博	内藤 敏子 堀田 祐志
臨床薬学	鈴木 匡 松永 民秀	中村 克徳	岩尾 岳洋 菊池 千草	

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 薬化学	職名 教授	氏名 中川 秀彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・教科書、指定参考書に沿った内容を精選・解説した授業資料（PowerPointスライド形式・PowerPointスライド印刷物） ・授業内容に沿った各回講義の演習作成・配布及び解答Web掲示による習熟度向上 ・教科書掲載問題の英語解答配布による英語力向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年12月予定	スタンダード薬学シリーズII第3巻，東京化学同人（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Photoinduced Nitric Oxide Release from a Hindered Nitrobenzene Derivative by Two-Photon Excitation	共著	平成21年6月	J. Am. Chem. Soc., Vol. 131, No. 22.
（論文）Photo-controllable Peroxynitrite Generator Based on N-Methyl-N-nitrosoaminophenol for Cellular Application	共著	平成24年2月	J. Am. Chem. Soc., Vol. 134, No. 5.
（論文）A Reductant-Resistant and Metal-Free Fluorescent Probe for Nitroxyl Applicable to Living Cells	共著	平成25年8月	J. Am. Chem. Soc., Vol. 135, No. 34.
（論文）Synthesis of a photocontrollable hydrogen sulfide donor using ketoprofenate photocages	共著	平成26年1月	Chem. Commun., Vol. 50, No. 5.
（論文）Photomanipulation of Vasodilation with a Blue-Light-Controllable Nitric Oxide Releaser	共著	平成26年5月	J. Am. Chem. Soc., Vol. 136, No. 19.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Photo-inducible hydrogen sulfide releaser using ketoprofenate photocages		平成26年6月	第3回国際H2S学会
（演題名）活性イオウ含有分子研究に資する機能性ドナーの開発（予定）		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
H20年4月～現在	日本酸化ストレス学会評議員		
H20年8月～平成22年7月	文部科学省学術調査官		
H24年4月～現在	日本医薬品医療機器総合機構専門委員		
H25年6月～現在	Executive editor of Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 薬化学	職名 助教	氏名 家田 直弥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Peroxynitrite generation from a NO-releasing nitrobenzene derivative in response to photoirradiation.	共著	平成23年6月	Chem. Commun. Vol. 47, No. 22
（論文） Photocontrollable peroxynitrite generator based on <i>N</i> -methyl- <i>N</i> -nitrosoamino-phenol for cellular application.	共著	平成24年2月	J. Am. Chem. Soc. Vol. 134, No. 5
（論文） Piloty's acid derivative with improved nitroxyl-releasing characteristics.	共著	平成25年4月	Bioorg. Med. Chem. Lett., Vol. 23, No. 8
（論文） A reductant-resistant and metal-free fluorescent probe for nitroxyl applicable to living cells.	共著	平成25年8月	J. Am. Chem. Soc., Vol. 135, No. 34
（論文） Photomanipulation of vasodilation with a blue-light-controllable nitric oxide releaser	共著	平成26年5月	J. Am. Chem. Soc., Vol. 136, No. 19
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） <i>N</i> -Nitrosoaniline 構造を有する可視光制御可能な NOドナーによる血管弛緩		平成26年10月	日本薬学会第134年会
（演題名） 青色光で制御可能な <i>N</i> -nitrosoaniline型NOドナーを用いた血管弛緩制御		平成26年5月	第12回次世代を担う有機化学シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
平成20年12月～現在	日本薬学会会員		
平成22年6月～現在	日本酸化ストレス学会会員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 薬化学	職名 助教	氏名 川口 充康
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）高感度ATX/ENPP2活性検出蛍光プローブを用いたATX阻害剤の開発	共著	2013	タンパク質結晶の最前線 シーエムシー出版
（論文）Development of photo-controllable hydrogen sulfide donor applicable in live cells	共著	2015	BMCL 2015, 25, 175-178.
（論文）Screening and X-ray crystal structure-based optimization of autotaxin (ENPP2) inhibitors, using a newly developed fluorescence probe	共著	2013	ACS Chem. Biol. 2013, 8, 1713-1721.
（論文）Diced electrophoresis gel assay for screening enzymes with specified activities	共著	2013	JACS 2013, 135, 6002-6005.
（論文）A reversible near-infrared fluorescence probe for reactive oxygen species based on Te-rhodamine	共著	2012	Chem. Comm. 2012, 48, 3091-3093.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 精密有機反応学	職名 教授	氏名 樋口 恒彦
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 授業内容に沿った演習問題集（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年5月10日	「無機化学」化学同人（編著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成22年～23年度 平成23年8月26日 平成26年11月24日	教務委員長 平成23年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ修了 日本薬学会第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ修了	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）「無機化学」	共著	平成23年5月10日	化学同人（ベーシック薬学教科書シリーズ）
（論文）Manganese Salen Complexes with Acid-Base Catalytic Auxiliary: Functional Mimetics of Catalase	共著	平成25年2月	<i>Inorg. Chem.</i> , 2013, 52(7), 3653-3662
（論文）ヘムから広がる化学：黎明期からのヘム酵素モデル研究	単著	平成25年11月	化学と工業 2013, 66, 11月号、
（論文）Nitrous Oxide Reduction-Coupled Alkene-Alkene Coupling Catalysed by Metalloporphyrin	共著	平成25年11月	<i>Chem. Commun.</i> , 2013, 49, 8979-8981
（論文）Inhibition of γ -Secretase Activity by Helical β -Peptide Foldamers	共著	平成21年3月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 2009, 131, 7353-7359
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Nitrous Oxide Reduction-Coupled Alkene-Alkene Coupling Catalyzed by Metalloporphyrin		平成26年5月12日	ECS Meeting (Florida)
（演題名）Synthesis and Catalytic Activity of Elemental Substituents of Heme Thiolate Complex		平成26年6月27日	8th International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成11年4月～現在	日本酸化ストレス学会評議員		
平成12年4月～現在	酸化反応討論会幹事		
平成12年4月～現在	金属の関与する生体関連反応シンポジウム評議員		
平成23年4月～現在	日本薬学会化学系薬学部会役員		
平成24年2月～現在	日本酸化ストレス学会東海支部監事		
平成24年1月～11月	第45回酸化反応討論会実行委員長		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 精密有機反応学	職名 准教授	氏名 梅澤 直樹
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書・コアカリキュラムに沿って内容を精選した板書中心の講義 ・ 授業内容に沿った演習問題の作成 ・ 毎回の小演習による授業内容理解度のチェック ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Inhibition of γ -Secretase Activity by Helical β -Peptide Foldamers	共著	2009年6月	J. Am. Chem. Soc. Vol.131, No.21
（論文）Facile synthesis of peptide-porphyrin conjugates: Towards artificial catalase	共著	2010年9月	Bioorg. Med. Chem. Vol.18, No.17
（論文）Photocontrol of Peptide Function: Backbone Cyclization Strategy with Photocleavable Amino Acid	共著	2011年7月	ChemBioChem Vol.12, No.11
（論文）Effect of Helical Conformation and Side-Chain Structure on γ -Secretase Inhibition by β -Peptide Foldamers: Insight into Substrate Recognition	共著	2013年2月	J. Med. Chem. Vol.56, No.4
（論文）Effective Chiral Discrimination of Tetravalent Polyamines on Single-DNA Compaction	共著	2013年3月	Angew. Chem. Int. Ed. Vol.52, No.13
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）構造制約によるペプチド機能の光制御		2014年7月	創薬懇話会2014
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2009年度	日本化学会東海支部幹事		
2010年度	日本化学会東海支部常任幹事		
2011年1月	日本化学会東海支部若手会実行委員長		
2012年11月	第45回酸化反応討論会実行委員		
2013年5月	第11回次世代を担う有機化学シンポジウム実行委員		
2010年～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム世話人		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	精密有機反応学	職名	助教	氏名	加藤 信樹
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料の作成及び事前配布 ・ 模擬テストの作成と配布ならびに解説 ・ 化学系実習補助プリントの作成及び配布 ・ レポートの書き方手引き作成及び配布 ・ 見本レポートの作成及び配布		
2 作成した教科書、教材、参考書			平成26年6月18日		薬学実習（物理系実習・化学系実習）		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）					なし		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称		
（著書） Synthesis of the Carbon Framework of Scholarisine A by Intramolecular Oxidative Coupling			共著	2013年3月	Chem. Eur. J. 2013 , 19		
（著書） Manganese salen complexes with acid-base catalytic auxiliary: Functional mimetics of catalase			共著	2013年4月	Inorg. Chem. 2013 , 52		
（論文） Effect of Helical Conformation and Side Chain Structure on γ -Secretase Inhibition by β -Peptide Foldamers: Insight into Substrate Recognition			共著	2013年2月	J. Med. Chem. 2013 , 56		
（論文） Nitrous oxide reduction-coupled alkene-alkene coupling catalysed by metalloporphyrins			共著	2013年10月	Chem. Commun. 2013 , 49		
（論文） FLAG Tagging by CuAAC and Nano-gram Scale Purification of the Target Protein for Bioactive Metabolite Concerning Circadian Rhythmic Leaf Movement of Leguminosae			共著	2010年1月	Chem. Commun. 2010 , 46		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月	学会名		
（演題名） 分子内酸化的カップリング反応を基盤とする Scholarisine Aの合成研究				平成26年5月	第4回有機分子構築法夏の勉強会		
（演題名） Scholarisine Aの合成研究				平成26年5月	新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第6回公開シンポジウム		
（演題名） Scholarisine Aの合成研究				平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成25年4月～現在		日本化学会東海支部常任幹事					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 名古屋市立大学		講座名 薬品合成化学	職名 教授	氏名 中村 精一
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			・ 指定教科書に記載されていないコアカリ関連事項について、解説と関連資料の配布 ・ 毎回の宿題による授業内容のまとめと演習 ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書			なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		平成22年9月19・20日 平成23年2月10日 平成24年4月～	第30回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海 修了 第4回ファカルティ・ディベロップメント講習会 修了 FDを管轄する教育支援センター運営委員会委員として、薬学部新任教員説明会や研究授業の実施、授業アンケート集計表の作成、大学満足度調査の分析等を担当	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）ピンナトキシンAの全合成		共著	平成21年11月	『天然物全合成の最新動向』シーエムシー出版
（論文）A stereocontrolled construction of 2-azido-2-deoxy-1,2- <i>cis</i> - α -galactosidic linkages utilizing 2-azido-4,6- <i>O</i> -benzylidene-2-deoxy-galactopyranosyl diphenyl phosphates: stereoselective synthesis of mucin core 5 and core 7 structures		共著	平成24年6月	Tetrahedron, Vol. 68, No. 25
（論文）Total syntheses of (+)-polygalolide A and (+)-polygalolide B: establishment of the absolute stereochemistry and biogenetic implications		共著	平成24年7月	Chem. Eur. J., Vol. 18, No. 31
（論文）Synthesis of chiral building blocks for oxygenated terpenoids through a simultaneous and stereocontrolled construction of contiguous quaternary stereocenters by an Ireland-Claisen rearrangement		共著	平成26年1月	J. Org. Chem., Vol. 79, No. 2
（論文）Stereoselective synthesis of the CDE ring system of antitumor saponin scillascilloside E-1		共著	平成26年3月	Org. Lett., Vol. 16, No. 7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月	学会名
（演題名）アセチルコリン受容体拮抗剤スピロリドDの合成研究			平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会
（演題名）ポリエン環化反応による架橋環構築を基盤とするバークレージオンの合成研究			平成26年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動				
平成17年3月～平成22年3月		日本化学会北海道支部代表正会員		
平成21年7月～平成22年6月		第8回次世代を担う有機化学シンポジウム実行委員		
平成23年2月～平成25年1月		日本薬学会代議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬品合成化学	職名	准教授	氏名	近藤 和弘
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					板書にこだわる講義：学生にノートをきちんと書かせるために		
2 作成した教科書、教材、参考書					なし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）					バレーボール部顧問 水泳部顧問		
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称		
(論文) General and Convenient TsOH-Induced Allylboration of Ketones			共著	2009年5月	Tetrahedron Lett., Vol 50. No.20		
(論文) Nickel-Catalyzed 1,2-Addition of Potassium Aryltrifluoroborates to α,β -Unsaturated			共著	2009年5月	Chem. Pharm. Bull., Vol 57. No. 4		
(論文) Et-Duphos-Nickel-Catalyzed Asymmetric Arylation of Benzaldehyde Derivatives Bearing an <i>ortho</i> -Me ₂ PhSi Group with Potassium Aryltrifluoroborates			共著	2009年11月	Tetrahedron Lett., Vol 50. No.44		
(論文) The Remarkable Solvent Effect on Zn(OAc) ₂ -Catalyzed Hydrosilylation of Ketones			共著	2010年 7 月	Chem. Pharm. Bull., Vol 58. No. 7		
(論文) Development of Catalytic Asymmetric Reactions on Conformational Control			単著	2014年 4 月	J. Synth. Org. Chem., Jpn., Vol 72. No. 4		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月	学会名		
なし							
III 学会および社会における主な活動							
2005～2011年		名古屋市教育派遣事業「教えて博士!なぜ?なに?ゼミナール」講師					
2006～2013年		名古屋市立大学産学官・地域連携推進センター共同研究開発技術シーズに参画					
2006～2010年		認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海の支援					
2010～2011年		株式会社メディセオ MR研修 講師					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬品合成化学	職名	助教	氏名	山越 博幸
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						なし	
2 作成した教科書、教材、参考書						なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	
(著書) Raman/SERS microscopy for molecular imaging of live cells				共著	平成25年3月	Nat. Protoc., Vol. 8	
(著書) Simultaneous imaging of protonated and deprotonated carbonylcyanide <i>p</i> -trifluoromethoxyphenylhydrazone in live cells by Raman microscopy				共著	平成25年11月	Chem. Commun., Vol. 50	
(論文) Synthesis of Chiral Building Blocks for Oxygenated Terpenoids through a Simultaneous and Stereocontrolled Construction of Contiguous Quaternary Stereocenters by an Ireland-Claisen Rearrangement				共著	平成25年12月	J. Org. Chem., Vol. 79, No. 2	
(論文) Stereoselective Synthesis of the CDE Ring System of Antitumor Saponin Scillascilloside E-1				共著	平成26年3月	Org. Lett., Vol. 16, No. 7	
(論文) Strong inhibitory effects of curcumin and its analogue on <i>Escherichia coli</i> ATP synthase F ₁ sector				共著	平成26年7月	Int. J. Biol. Macromol., Vol. 70	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
(演題名) 2-テトラヒドロフランカルボン酸誘導体の転位を利用する生物活性天然物の合成研究					平成26年9月		第44回複素環化学討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
なし							

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	機能分子構造学	職名	准教授	氏名	池田 慎一
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料の作成及び事前配布 ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書						なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	
（論文） A New Quadruple Hydrogen-Bonding Module with a DDAA Array: Formation of a Stable Homodimer without Competition from Undesired Hydrogen-Bonded Dimers				共著	2009年10月	Org. Lett., vol. 11, No. 19	
（論文） A New Quadruple Hydrogen-Bonding Module Based on Five-Membered Heterocyclic Urea Structure				共著	2010年4月	Org. Lett., vol. 12, No. 8	
（論文） Nickel/Zinc Chloride-Promoted Domino Reaction of Enynes and Enones Including Unstrained C-C Bond Cleavage				共著	2012年3月	Adv. Synth. Catal., vol. 354, No. 5	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月	学会名	
なし							
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成16年1月～現在		有機合成化学協会東海支部常任幹事					
平成24年4月～現在		日本化学会代議員					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 機能分子構造学	職名 講師	氏名 白井 直洋
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		複数の教科書より内容を精選し、授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版）	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） A New Quadruple Hydrogen-Bonding Module with a DDAA Array: Formation of a Stable Homodimer without Competition from Undesired Hydrogen-Bonded Dimers	共著	2009年10月	Org. Lett., vol. 11, No. 19
（論文） A New Quadruple Hydrogen-Bonding Module Based on Five-Membered Heterocyclic Urea Structure	共著	2010年4月	Org. Lett., vol. 12, No. 8
（論文） Nickel/Zinc Chloride-Promoted Domino Reaction of Enynes and Enones Including Unstrained C-C Bond Cleavage	共著	2012年3月	Adv. Synth. Catal., vol. 354, No. 5
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	生体超分子システム解析学	職名	教授	氏名	平嶋 尚英
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						・機器分析化学など物理を背景とする科目においては、高校での物理未修者にもわかるように、高校レベルの物理から説く。 ・授業アンケートの感想では「わかりやすかった」というコメントを得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書				平成26年4月23日		薬学生のための基礎シリーズ7 基礎化学 培風館（編集・共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）				平成20年10月1日～平成23年3月31日 平成23年4月1日～現在 平成25年8月29日		・文科省 戦略的大学連携支援事業「6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携」FD部会長として多数のFD講演・ワークショップを企画・参加。 ・東海薬学教育コンソーシアム FD部会長 ・文部科学省「薬学教育指導者のためのワークショップ」参加	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
(論文) Orai-2 is localized on secretory granules and regulates antigen-evoked Ca ²⁺ mobilization and exocytosis in mast cells				共著	平成26年7月	Biochem. Biophys. Res. Commun. in press	
(論文) Endocytosis-like uptake of surface-modified drug nano-carriers into giant unilamellar vesicles				共著	平成24年5月	Langmuir Vol. 28, No. 18	
(論文) The suppression of IgE-mediated histamine release from mast cells following exocytic exclusion of biodegradable polymeric nanoparticles				共著	平成24年1月	Biomaterials Vol. 33, No. 1	
(論文) Effects of synaptotagmin II on membrane fusion of liposomes containing SNARE proteins involved in exocytosis in mast cells				共著	平成23年10月	BBA Biomembranes Vol. 1808, No. 10	
(論文) Artificial exocytotic system that secretes intravesicular contents upon Ca ²⁺ influx.				共著	平成22年9月	Langmuir Vol. 26, No.18	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月	学会名	
(演題名) マスト細胞の分泌顆粒に局在するCaチャンネルOrai-2の機能解析					平成26年7月	日本薬学会薬学会東海支部大会	
(演題名) アレルゲン親和性が制御するIgE受容体シグナル伝達機構の機能解析					平成26年11月	日本分子生物学会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成21年4月～平成25年3月		日本薬学会薬学会物理系薬学部会世話人					
平成25年4月～現在		日本健康促進医学会理事					
平成25年4月～平成27年3月		愛知県薬事審議会委員					
平成26年4月～平成27年3月		国公立大学薬学部長（科長・学長）会議議長、同幹事					
平成26年6月～平成28年6月		薬学教育協議会理事					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 生体超分子システム解析学	職名 准教授	氏名 田中 正彦
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 授業内容をまとめたプリントの配布 ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ ・ 演習問題の解説及び解答・解説を記したプリントの配布による習熟度向上の取り組み ・ 顕微鏡画像のスライド映写による理解度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） A role of myosin Va in cerebellar plasticity and motor learning: A possible mechanism underlying neurological disorder in myosin Va disease	共著	平成23年4月	J. Neurosci., Vol. 31, No. 16
（著書） Single-cell electroporation of siRNA in primary neuronal cultures	単著	平成24年	Neuromethods, Vol. 65, Springer
（論文） Dendritic differentiation of cerebellar Purkinje cells is promoted by ryanodine receptors expressed by Purkinje and granule cells	共著	平成26年4月	Dev. Neurobiol., Vol. 74, No. 4
（論文） ZIP2, a zinc transporter, is associated with keratinocyte differentiation	共著	平成26年8月	J. Biol. Chem., Vol. 289, No. 31
（論文） Optimization of single-cell electroporation protocol for forced gene expression in primary neuronal cultures	共著	平成26年9月	Mol. Biotechnol., Vol. 56, No. 9
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Role of ryanodine receptor type 2 expressed by cerebellar granule cells in dendritic differentiation of Purkinje cells		平成26年11月	44th Annual Meeting of the Society for Neuroscience
（演題名） プルキンエ細胞の発生過程に及ぼすGluR2の発現抑制効果		平成26年11月	第37回日本分子生物学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成15年10月～現在	日本神経化学会評議員		
平成25年2月～平成27年1月	日本薬学会東海支部役員（大学幹事）		
平成26年7月～平成27年1月	日本薬学会東海支部学術奨励賞選考委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 生体超分子システム解析学	職名 講師	氏名 鈴木 亮
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		平成25年まで海外の研究所で勤務、平成26年4月着任につき現在担当授業なし。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年7月	名古屋市立大学薬学部実習書 「薬学実習（物理系実習）」（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年7月20日、21日	第48回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Molecular Editing of Cellular Responses by the High-Affinity Receptor for IgE.	共著	2014年2月	Science, Vol.343, No. 6174
（論文）Munc18-2 and Syntaxin 3 Control Distinct Essential Steps in Mast Cell Degranulation.	共著	2014年1月	J. Immunol., Vol.92, No. 1
（論文）Characterization of a phospho-specific antibody to the Fcε receptor γ chain reveals differences in the regulation of Syk and Akt phosphorylation.	共著	2013年5月	Antibodies, Vol.2, No. 2
（論文）Mast Cell Interleukin-2 Production Controbutes to Suppression of Chronic Allergic Dermatitis.	共著	2011年10月	Immunity, Vol.35, No.4
（論文）Loss of TRPC1-mediated Ca2+ influx contributes to impaired mast cell degranulation and underlies the defective exocytotic response of Fyn-null mast cells.	共著	2010年11月	J. Leukoc. Biol., Vol.88, No. 5
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）マスト細胞分泌顆粒に局在するCa ²⁺ チャネルOrai-2の機能解析		平成26年7月	日本薬学会
（演題名）膵島α細胞の細胞内顆粒動態の解析		平成26年9月	日本バイオイメーjing学会
（演題名）アレルゲン親和性が制御するIgE受容体シグナル伝達機構の機能解析		平成26年11月	日本分子生物学会
（演題名）Molecular Editing of Cellular Responses by the High Affinity Receptor for IgE		平成26年12月	EMBRN-COST International Mast Cell and Basophil Meeting
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成14年10月30日～11月1日	第11回日本バイオイメーjing学会学術集会 実行委員		
平成14年11月7～8日	第24回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 実行委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 コロイド・高分子物性学	職名 教授	氏名 山中 淳平
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・教科書の理解を助けるため、毎回の講義でプリントを使用。 ・講義内容の復習・確認のための問題演習を基本的に毎回実施 ・中間テストの実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年2月25日	製剤への物理化学（第2版）、廣川書店（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）Pattern Formations and Oscillatory Phenomena	共著	2013年6月	Elsevier
（著書）ゲルテクノロジーハンドブック	共著	2014年5月	エヌ・ティー・エス
（論文）Exclusion of Impurity Particle During Grain Growth in Charged Colloidal Crystals	共著	2011年10月	Langmuir 2011, vol. 27, p.11732
（論文）Impurity Partitioning During Colloidal Crystallization.	共著	2013年10月	J. Phys. Chem. B, 2013,vol.117, p.5289
（論文）Recrystallization and Zone Melting of Charged Colloids by Thermally Induced Crystallization	共著	2013年7月	Langmuir 2013, vol.29,p.9668
（論文）Exclusion of Impurity Particles in Charged Colloidal Crystals	共著	2014年5月	Soft Matter, 2014, vol. 10, p.3357
（論文）Thermoresponsive Colloidal Crystallization Using Adsorption of Ionic Surfactant	共著	2014年7月	Chem. Mater., 2014, vol.26, p.4057
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Thermally Induced Crystallization and Zone Melting of Charged Colloids		平成26年7月	NIMS conference 2014
（演題名）Colloidal Crystals and Their Applications as Photonic Materials		平成26年8月	日本学術振興会 IJAA Conference 2014
（演題名）コロイド結晶のゾーンメルト		平成26年9月	26年度日本化学会コロイドおよび界面科学討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～現在	日本薬学会 東海支部 幹事		
平成26年4月～現在	科学技術交流財団 コロイドマテリアル応用化研究会 座長		
平成25年4月～現在	結晶成長学会 幹事		
平成24年4月～現在	日本薬学会 代議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	コロイド・高分子物性学	職名	准教授	氏名	奥 蘭 透
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						・ 授業内容を理解し、復習するための自己完結的記述による資料を作成、配布。 ・ 授業の理解度をみるための小テストを毎回実施。 ・ 試験の前に総合演習の時間を設け、実施。	
2 作成した教科書、教材、参考書				平成24年2月25日		製剤への物理化学（第2版）、廣川書店（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
（著書）Pattern Formations and Oscillatory Phenomena				共著	2013年6月	Elsevier	
（著書）薄膜塗布技術と乾燥トラブル対策				共著	2013年8月	技術情報協会	
（論文）Effect of Gelation on the Evaporation Rate of Polymer Solutions				共著	2010年9月	J. Phys. Soc. Jpn., Vol.79, No.9, 094801	
（論文）Gravitational compression dynamics of charged colloidal crystals				共著	2012年1月	J. Colloid Interface Sci., Vol.370, 39	
（論文）Exclusion of impurity particles in charged colloidal crystals				共著	2014年5月	Soft Matter, Vol.10, No.19, 3357	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
（演題名）Dynamics of phase-separated domains of polyelectrolytes under pH gradient					2014年7月		9 th Liquid Matter Conference
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成17年4月～現在		日本液晶学会ソフトマターフォーラム委員					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 コロイド・高分子物性学	職名 講師	氏名 豊玉 彰子
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Pattern Formations and Oscillatory Phenomena	共著	2013年6月	Elsevier
（論文）Exclusion of Impurity Particle During Grain Growth in Charged Colloidal Crystals	共著	2011年10月	Langmuir 2011, vol. 27, no.22, p.11732
（論文）Recrystallization and Zone Melting of Charged Colloids by Thermally Induced Crystallization	共著	2013年7月	Langmuir 2013, vol.29, no.31,p.9668
（論文）Exclusion of Impurity Particles in Charged Colloidal Crystals	共著	2014年5月	Soft Matter 2014, vol. 10, p.3357
（論文）Thermoresponsive Colloidal Crystallization Using Adsorption of Ionic Surfactant	共著	2014年7月	Chemistry of Materials, 2014 , vol.26, p.4057
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Thermoresponsive Colloidal Crystallization Based on Adsorption of Ionic Surfactants		平成26年7月	Liquid 2014
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～平成26年4月	中部経済連合会 Next30産学フォーラムコアメンバー		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 生命分子構造学	職名 准教授	氏名 佐藤 匡史
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成 ・ 毎回の講義の小テスト、アンケート調査による授業内容の理解度の確認と改善の取り組み ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Conformational dynamics of wild-type Lys-48-linked diubiquitin in solution	共著	平成23年10月	J. Biol. Chem. Vol. 286, No. 43
（論文）Molecular and structural basis for N-glycan-dependent determination of glycoprotein fates in cells	共著	平成24年9月	Biochim Biophys Acta., Vol. 1820, No. 9
（論文）An archaeal homolog of proteasome assembly factor functions as a proteasome activator	共著	平成25年3月	PLoS ONE, Vol. 8, No. 3
（論文）Structural basis for proteasome formation controlled by an assembly chaperone Nas2	共著	平成26年5月	Structure, Vol. 22, No. 5
（論文）Recent advances in glycoprotein production for structural biology: toward tailored design of glycoforms	共著	平成26年6月	Curr. Opin. Struct. Biol., Vol. 26, No. C
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Structural insight into substrate recognition mechanism of glycoprotein processing enzyme ER glucosidase II		平成26年5月	The 4th Asia Pacific Protein Association Conference
（演題名）小胞体品質管理システムに関わるグルコシダーゼIIの基質認識機構		平成26年6月	第14回日本蛋白質科学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成23年7月～平成23年11月	第9回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム 若手実行委員		
平成23年4月～平成23年10月	The 71st Okazaki International Conference 実行委員		
平成23年10月～平成24年9月	日本生物物理学会第50回年会 実行委員		
平成26年1月～現在	第33回日本糖質学会年会 Advisory boardメンバー		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	生命分子構造学	職名	講師	氏名	矢木 宏和
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及びポータルを利用した資料の配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ ・ 小演習解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書						なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
（論文）Conformational characterization of a protein complex involving intrinsically disordered protein by small-angle neutron scattering using the inverse contrast matching method				共著	平成26年3月	Journal of Applied Crystallography, 47, 430-435, 2014	
（論文）AGO61-dependent GlcNAc modification primes the formation of functional glycans on α-dystroglycan				共著	平成25年11月	Scientific Reports, 3: Article No.3288, 2013 doi: 10.1038/srep03288	
（論文）Lewis X-carrying N-glycans regulate the proliferation of mouse embryonic neural stem cells via the Notch signaling pathway				共著	平成24年9月	Journal of Biological Chemistry, 287, pp24356-24364, 2012	
（論文）HNK-1 epitope-carrying Tenascin-C spliced variant regulates the proliferation of mouse embryonic neural stem cells				共著	平成22年9月	Journal of Biological Chemistry, 285, pp37293-37301, 2010	
（論文）Lysosome-associated membrane protein 1 is a major SSEA-1-carrier protein in mouse neural stem cells				共著	平成22年5月	Glycobiology, 20, pp976-981, 2010	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
（演題名）AG061はラミニン結合性糖鎖の初期構造の形成に関与する					平成26年8月		日本糖質学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成24年6月～現在				比較グライコム研究会世話人			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	分子生物薬学	職名	教授	氏名	今川 正良
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				・指定教科書に沿って、教科書を書画カメラに映しながら講義を行う。必要に応じてプリント配布。 ・毎回の講義の最後に小レポート形式でまとめを課す。質問がある場合は記入させる。 ・次回講義の冒頭で、前回講義の復習および質問事項の解説を行い理解度を高める。			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年8月20日 平成22年12月10日 平成23年8月20日 平成24年4月10日		レーニンジャーの新生化学[下] (第5版) 訳本 廣川書店（共訳） S薬学シリーズ4 生物系薬学II（第2版） 東京化学同人（共著） 21世紀の考える薬学微生物学（第3版） 廣川書店（共著） ベーシック薬学教科書 8 生化学 化学同人（共著）			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）				なし			
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称			
(論文) Fad104, a positive regulator of adipogenesis, negatively regulates osteoblast differentiation.		共著	平成22年6月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 397 (2): 187-191 (2010).			
(論文) Interleukin enhancer binding factor 3 functions as a liver receptor homolog-1 co-activator in synergy with the nuclear receptor co-activators, PRMT1 and PGC-1α.		共著	平成23年8月	Biochem. J., 437 (3): 531-540 (2011).			
(論文) Indispensable role of factor for adipocyte differentiation 104 (fad104) in lung maturation.		共著	平成23年9月	Exp. Cell Res., 317 (15): 2110-2123 (2011).			
(論文) Targeted disruption of fad24, a regulator of adipogenesis, causes pre-implantation embryonic lethality due to the growth defect at the blastocyst stage.		共著	平成25年8月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 438 (2): 301-305 (2013).			
(論文) FAD104, a regulatory factor of adipogenesis, acts as a novel regulator of calvarial bone formation.		共著	平成25年11月	J. Biol. Chem., 288 (44): 31772-31783 (2013).			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月	学会名			
(演題名) 脂肪細胞分化を制御する新規遺伝子の多彩な機能【特別講演】			平成26年5月	第15回Pharmaco-Hematology Symposium			
III 学会および社会における主な活動							
平成19年4月～現在		日本生化学会評議員					
平成19年3月～平成22年3月		日本薬学会 Biol. Pharm. Bull., 編集委員					
平成22年4月～平成25年13月		日本薬学会生物系薬学部会部会長					
平成25年4月～現在		日本薬学会代議員					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 分子生物薬学	職名 准教授	氏名 長田 茂宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 授業内容を補足するための精選した資料を、指定参考書などを用いて作成・配布 ・ 授業内容と社会生活・現状を結びつける新聞記事を精選し、資料として作成・解説 ・ 毎回の小レポートによる授業内容のまとめ ・ 毎回の授業の疑問点、不明瞭な点を調査し、次の授業時に解説	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年8月20日	21世紀の考える薬学微生物学（第3版）、廣川書店（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成25年9月1日 平成25年11月10日	・ OSCE評価者養成講習会のタスクフォース ・ FD講演会「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の基本理念と概要」参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Promotion of anchorage-independent growth by cytoplasmic and nuclear histone deacetylase 9.	共著	平成22年10月	J. Health Sci., Vol. 56, No. 5
（論文）Inositol phosphate kinase Vip1p interacts with histone chaperone Asf1p in Saccharomyces cerevisiae.	共著	平成24年4月	Mol. Biol. Rep., Vol. 39, No. 4
（著書）「がん増殖と悪性化の分子機構」	共著	平成24年9月	化学同人
（論文）Elevated expression of coactivator-associated arginine methyltransferase 1 is associated with early hepatocarcinogenesis.	共著	平成25年10月	Oncol. Rep., Vol. 30, No. 4
（論文）FAD104, a regulatory factor of adipogenesis, acts as a novel regulator of calvarial bone formation.	共著	平成25年11月	J. Biol. Chem., Vol. 288, No. 44
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）脂肪細胞分化促進因子fad24は胚盤胞形成に必須な機能を担う		平成26年5月	第78回日本生化学会中部支部例会
（演題名）Fad104, a regulatory factor of adipogenesis, negatively regulates invasion and metastasis of cancer cells.		平成26年8月	FEBS-EMBO 2014 Conference
III 学会および社会における主な活動			
平成20年2月～平成22年1月	日本薬学会 代議員		
平成21年2月～平成23年1月	日本薬学会 東海支部 幹事		
平成22年4月～平成24年3月	日本薬学会 生物系薬学部会 常任世話人		
平成26年4月～現在	日本薬学会 学術誌編集委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 分子生物薬学	職名 講師	氏名 西塚 誠
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・実習における各操作について手技ならびに注意点をまとめたDVDを作製した。そのDVDを用いて詳細に説明することにより履修者全員が理解できるよう工夫した。 ・教科書の内容を補足、拡充する資料を準備し、理解力向上をめざした。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）Fad104, a positive regulator of adipogenesis, negatively regulates osteoblast differentiation.	共著	平成22年6月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 397 (2)
（著書）Indispensable role of factor for adipocyte differentiation 104 (fad104) in lung maturation.	共著	平成23年9月	Exp Cell Res. 317 (15)
（論文）Interactions of thyroid hormone receptor with Ku proteins and interleukin enhancer binding factor 3 modulate the promoter activity of thyroid-stimulating hormone alpha.	共著	平成24年3月	Biol Pharm Bull. 35 (3)
（論文）Targeted disruption of fad24, a regulator of adipogenesis, causes pre-implantation embryonic lethality due to the growth defect at the blastocyst stage.	共著	平成25年8月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 438 (2)
（論文）FAD104, a regulatory factor of adipogenesis, acts as a novel regulator of calvarial bone formation.	共著	平成25年11月	J. Biol. Chem. 288 (44)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）脂肪細胞分化促進因子fad24は胚盤胞形成に必須な機能を担う		平成26年5月	日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
（演題名）脂肪細胞分化制御因子fad104はがん細胞の浸潤・転移を抑制する		平成26年5月	第15回Pharmacology-Hematologyシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 薬物送達学	職名 教授	氏名 尾関 哲也
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定教科書に沿った内容に新しい情報を加えた講義資料（スライド）の作成及び資料（スライドPDF）の配布 ・ 演習問題集による演習及び解説	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年3月1日 平成24年4月1日	パザパ薬学演習シリーズ⑤ 物理薬剤学・製剤学演習（第2版）、京都廣川書店（共著） 最新薬剤学（第10版）、廣川書店（共著、編集）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成22年3月30日 平成23年3月30日 平成24年3月29日	日本薬学会第134年会 教育系薬学にて「名古屋市立大学薬学部製剤学実習における味覚センサー導入の試み」 発表 第2報 発表 第3報 発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Novel pharmaceutical cocrystal consisting of paracetamol and trimethylglycine, a new promising candidate of cocrystal former	共著	平成26年7月	Int. J. Pharm., 473(1-2)
（論文） Simple and effective preparation of nano-pulverized curcumin by femtosecond laser ablation and the cytotoxic on C6 glioma cells in vitro	共著	平成26年7月	Int. J. Pharm., 468(1-2)
（論文） The effect of simvastatin-loaded polymeric microspheres in a critical size bone defect in the rabbit calvaria	共著	平成26年1月	Int. J. Pharm., 461(1-2)
（論文） Improved bioavailability of a water-insoluble drug by inhalation of drug-containing maltosyl-β-cyclodextrin microspheres using a four-fluid nozzle spray drier	共著	平成24年12月	AAPS PharmSciTech,13(4)
（論文） Improved intestinal absorption of a poorly water-soluble oral drug using mannitol microparticles containing a nano-solid drug dispersion	共著	平成24年11月	J. Pharm. Sci., 101(11)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）新規抗結核薬OCT313からなる固体ナノ粒子を含有した肺胞マクロファージ標的経肺投与製剤の開発		平成26年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名） A Novel Artificial HDL Nanoparticles Formulation with Gold-nanocores and its Anti-inflammatory Effect		平成26年5月	3rd Asian Symposium on Pharmaceutical Science and Technology (ASPST 2014)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成18年5月～平成26年5月	日本薬剤学会広報委員会委員 平成22年より委員長		
平成22年5月～現在	日本薬剤学会評議員		
平成22年5月～現在	創剤フォーラム世話人 平成24年9月より副代表世話人		
平成26年5月～現在	日本薬剤学会理事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 薬物送達学	職名 講師	氏名 田上 辰秋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料の作成および配布（PowerPointスライド） ・ 授業内容に沿った演習問題集の作成及び配布（PowerPointスライド）	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年3月 2013年3月 2014年3月	「名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み～」第132年会日本薬学会 「同演題～第2報」第133年会日本薬学会 「同演題～第3報」第134年会日本薬学会	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	2014年7月21日	認定実務実習指導薬剤師養成WS終了	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）製剤開発の世界潮流とわが国の将来展望	共著	2013年12月	（株）じほう、ファームテックジャパン, Vol. 29, No. 15
（論文）Novel pharmaceutical cocrystal consisting of paracetamol and trimethylglycine, a new promising cocrystal former	共著	2014年10月	Int J Pharm. Vol.473, Issue 1-2
（論文）Simple and effective preparation of nano-pulverized curcumin by femtosecond laser ablation and the cytotoxic effect on C6 rat glioma cells in vitro.	共著	2014年7月	Int J Pharm. Vol.468, Issue 1-2
（論文）Functionally engineered nanosized particles in pharmaceuticals: improved oral delivery of poorly water-soluble drugs.	共著	2013年	Vol. 19, Issue 35
（論文）The effect of simvastatin-loaded polymeric microspheres in a critical size bone defect in the rabbit calvaria.	共著	2014年1月	Int J Pharm. Vol.461, Issue 1-2
2. 学会発表		発表年・月	学会名
（演題名）スフィンゴシン1リン酸/アポリポタンパクA1含有金ナノ粒子による炎症性動脈硬化に対する新規ドラッグデリバリーシステムの開発		2014年5月	第15回Pharmaco-Hematology Symposium
（演題名）新規抗結核薬OCT313からなる固体ナノ粒子を含有した肺胞マクロファージ標的経肺投与製剤の開発		2014年5月	第29回日本薬剤学会
（演題名）シンバスタチン封入PLGANano・マイクロスフェアの調製と歯科インプラント治療への応用		2014年7月	第39回製剤・創剤セミナー
（演題名）経肺投与に適した金ナノ粒子含有マイクロ粒子の製剤設計		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）Characterization of novel nanocomposite formulations prepared by a two-solution mixing type spray nozzle and the bitter-masking effect of quinine		2014年11月	2014 AAPS Annual Meeting and Exposition
III 学会および社会における主な活動			
2012年2月～2013年12月	第5回アジア・アーデンカンファレンス組織委員		
2013年12月～現在	製剤機械技術学会第24回大会組織委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	マイクロRNAゲノム創薬学	職名	准教授	氏名	藤井　ロバート陽一
Ⅰ　教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				平成26年11月19日		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 授業内容に沿った演習問題（PowerPointスライド形式）の作成及び配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 毎回の小テストによる授業理解度検査	
2　作成した教科書、教材、参考書						なし	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
Ⅱ　研究活動							
1．著書・論文等の名称				単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	
（著書）The RNA gene information: retroelement-microRNA entangling as the RNA quantum code.				単著	2013.3.31	Springer、MicroRNA Protocols （pp. 47-67）	
（著書）RNA information gene diseases: nano-RNA-based medical devices with corporate chemotherapy and gene Therapy.				単著	2014.3.31	Pan Stanford、RNA Nanotechnology （pp. 385-434）	
（論文）RNA genes: retroelements and virally retroposable microRNAs in human embryonic stem cells.				単著	2010.5.25	Bentham、The Open Virology Journal(4, 63-75)	
（論文）RNA wave for the HIV therapy: foods, stem cells and the RNA information gene.				単著	2013.6.00	Scientific Research、World Journal of AIDS（3, 131-146）	
（論文）The xenotropic microRNA gene information for stem cell research and clinical applications.				単著	2013.0.00	Scientific Research、Stem Cell Research（3, 32-36）	
2．学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
なし							
Ⅲ　学会および社会における主な活動							
なし							

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	生薬学	職名	教授	氏名	牧野 利明
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				・オリジナルテキスト形式のプリントによる講義資料を作成し、実際の講義ではそれをふまえたスライド形式で行っている。テキスト、スライドは、それぞれPDF化してWeb上にあらかじめアップし、学生はそれを事前にダウンロードして予習が出来るだけでなく、iPad等でスライドを見ながら、書き込めるようにしている。 ・毎回の講義後に小テストを行い、そこに感想や質問を各欄を設け、毎回、学生からの声を聞きながら講義を改善している。			
2 作成した教科書、教材、参考書				なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成21年 平成21年8月30日 平成23年		牧野利明、漢方薬学教育における「中薬学」の有用性、phil漢方 No. 28: 20, 2009 牧野利明【シンポジスト講演】、漢方薬学教育における中医学の有用性、第26回和漢医薬学会大会 牧野利明、漢方薬学教育を考える、漢方の臨床 58(1): 73, 2011			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）				なし			
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称			
（著書）『漢方・中医学講座～臨床生薬学編』		共著	2009年11月	医歯薬出版社			
（著書）『漢方薬・生薬薬剤師講座テキストIV第3版』		共著	2010年3月	薬剤師研修センター			
（論文）Counteractive effect of <i>Paonia lactiflora</i> root constituent mudanpioside E against suppressive effect of Shoseiryuto-extract on passive cutaneous anaphylaxis reaction in mice		共著	2014年4月	J. Ethnopharmacol. 153(3): 884-889			
（論文）Calycosin and formononetin from astragalus root enhance dimethylarginine dimethylaminohydrolase 2 and nitric oxide synthase expressions in Madin Darby Canine Kidney II cells		共著	2013年12月	J. Nat. Med. 67(4), 782-789			
（論文）3-Monoglucuronyl-glycyrrhretinic acid is a substrate of organic anion transporters expressed in tubular epithelial cells and plays important roles in licorice-induced pseudoaldosteronism by inhibiting 11β-hydroxysteroid dehydrogenase 2		共著	2012年2月	J. Pharm. Exp. Ther. 342(2), 297-304			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月	学会名			
（演題名）甘草による偽アルドステロン症に関する基礎研究とその臨床への応用			平成26年6月	医療薬学フォーラム2014/第22回クリニカルファーマシーシンポジウム			
（演題名）漢方エキス製剤の使い方と問題点			平成26年7月	第24回日本東洋医学会関東甲信越支部神奈川支部会学術大会			
III 学会および社会における主な活動							
平成17年4月～平成29年3月		和漢医薬学会評議員					
平成21年4月～平成29年3月		日本生薬学会学会誌編集委員					
平成22年4月～平成28年3月		日本社会薬学会幹事					
平成25年6月～平成27年5月		日本東洋医学会JLOM関連委員会委員					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	生薬学	職名	講師	氏名	寺坂 和祥
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ ・ 講義内容に関する質問および演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書						なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）				平成21年11月22日～23日		第24回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海に参加・修了	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
(論文) Iridoid-specific Glucosyltransferase from <i>Gardenia jasminoides</i>				共著	平成23年9月	The Journal of Biological Chemistry, Vol.286, No.37	
(論文) UGT75L6 and UGT94E5 mediate sequential glucosylation of crocetin to crocin in <i>Gardenia jasminoides</i>				共著	平成24年4月	FEBS Letters, Vol.586, No.7	
(論文) <i>In situ</i> UDP-glucose regeneration unravels diverse functions of plant secondary product glycosyltransferases				共著	平成24年12月	FEBS Letters, Vol.586, No.24	
(論文) A 7-Deoxyloganetic Acid Glucosyltransferase Contributes a Key Step in Secologanin Biosynthesis in Madagascar Periwinkle				共著	平成25年10月	The Plant Cell, Vol.25, No.10	
(論文) Quantitative Determination of Carthamin in Carthamus Red by ¹ H-NMR Spectroscopy				共著	平成25年12月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, Vol.61, No.12	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
なし							
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
なし							

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 藤原 俊伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定教科書に沿って作成した授業スライド（Powerpointスライド形式）の作製 ・ 授業スライドの紙媒体の配布。 ・ 毎回の授業終了後の確認テストの実施と、結果の学生へのフィードバックによる理解度向上のとりくみ。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) binds to human immunoglobulin G (IgG) and inhibits complement activation via the classical pathway.	共著	2010年1月	Molecular Immunology 47(4)
（論文）The essential role for the RNA triphosphatase Cet1p in nuclear import of the mRNA capping enzyme Cet1p-Ceg1p complex of Saccharomyces cerevisiae.	共著	2013年10月	PLoS One. 2013 30;8(10):e78000.
（論文）Targeting cancer cell-specific RNA interference by siRNA delivery using a complex carrier of affibody-displaying bio-nanocapsules and liposomes.	共著	2013年6月	J Nanobiotechnology.
（論文）Structure of the second RRM domain of Nrd1, a fission yeast MAPK target RNA binding protein, and implication for its RNA recognition and regulation.	共著	2013年7月	Biochemical and Biophysical Research Communications 437(1)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）HuD accelerates cap-dependent translation in a distinct pathway from PABP mediated translation stimulation		2014年6月	RNA2014
（演題名）Regnase-1 は翻訳依存性に標的mRNA を分解する		2014年7月	第16回 日本RNA学会年会会
（演題名）活性型Akt1 によるeIF4B のリン酸化を介したRNA 結合タンパク質HuD のcap 依存的翻訳の促進		2014年7月	第16回 日本RNA学会年会会
（演題名）cap-poly(A) mRNA の翻訳におけるHuD とPABP の相関関係		2014年7月	第16回 日本RNA学会年会会
（演題名）ポリオウイルスの細胞種特異的なIRES 依存的翻訳の解析		2014年7月	第16回 日本RNA学会年会会
（演題名）HuD とeIF3 の相互作用による翻訳制御の解析		2014年7月	第16回 日本RNA学会年会会
III 学会および社会における主な活動			
	長野ミーティングオーガナイザー		
	日本RNA学会プログラム委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 衛生化学	職名 准教授	氏名 瀧井 猛将
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 社会学習の実施 地方衛生研究所の研究員の外来講師招聘 ・ 色紙を用いた参加型講義の試み ・ 体験型実習の実施 名古屋市名城下水処理場の見学 ・ 講義の確認テスト，講義感想等の実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月	化学療法学～病原微生物・がんと戦う～（南江堂）分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成22年10月 平成23年 1月 平成25年 9月	第9回FD講習会参加 平成22年度FDワークショップ参加 OSCE 評価者養成講習会タスクフォース	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）BCG ―Vaccine and Adjuvant―（英文）	編者	平成23年 4月	結核研究所出版部
（著書）薬学用語辞典	共著	平成24年 3月	東京化学同人
（論文）Comparable studies of immunostimulating activities in vitro among <i>Mycobacterium bovis</i> bacillus Calmette-Guerin (BCG) substrains.	共著	平成21年 8月	FEMS Immunol Med Microbiol. 第56巻 第2号
（論文）Biochemical characteristics among <i>Mycobacterium bovis</i> BCG substrains.	共著	平成22年 9月	Immun Ageing. 第7巻 第12号
（論文）Synthesis and evaluation of anti-tubercular activity of new dithiocarbamate sugar derivatives.	共著	平成23年 2月	Bioorg Med Chem Lett. 第21巻 第3号
（論文）Antitubercular activity of disulfiram, an antialcoholism drug, against multidrug- and extensively drug-resistant <i>Mycobacterium tuberculosis</i> isolates.	共著	平成24年 8月	Antimicrob Agents Chemother. 第56巻 第8号
（総説）最前線：結核ワクチンの新しい展開	共著	平成25年 3月	ファルマシア 第49巻 3号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） <i>Mycobacterium avium</i> の低pH環境下におけるアルギニンデヒミナーゼの誘導の解析		平成26年・5月	第84回実験結核研究会
（演題名）マクロファージ感染 <i>Mycobacterium avium</i> に対するクラリスロマイシンとバフィロマイシンの相乗効果		平成26年・5月	第89回日本結核病学会総会
（演題名） <i>Mycobacterium bovis</i> BCG の過酸化水素ストレスによるredox関連遺伝子発現変化の解析		平成26年・7月	第60回 日本薬学会東海支部 総会・大会2014
III 学会および社会における主な活動			
平成18年4月～現在	厚生労働省社会保障国際協力推進事業 日米医学協力会 結核・ハンセン病専門部会班員		
平成23年4月～現在	日本実験結核研究会幹事		
平成26年5月	日本実験結核研究会第82回大会 大会長		
平成26年5月	第89回日本結核病学会総会 教育講演 講師		
平成26年10月	Poland (NIPH - NIH)の科学研究費助成の審査員		
平成26年12月	日本薬学会東海支部会学術奨励賞一次審査委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 衛生化学	職名 講師	氏名 伊藤 佐生智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定教科書に沿って作成した授業スライド（Powerpointスライド形式）の作製 ・ 授業スライドの紙媒体の配布。 ・ 毎回の授業終了後の確認テストの実施と、結果の学生へのフィードバックによる理解度向上のとりくみ。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) binds to human immunoglobulin G (IgG) and inhibits complement activation via the classical pathway.	共著	2010年1月	Molecular Immunology 47(4)
（論文）Staphylococcal Superantigen-Like Protein 5 Inhibits Matrix Metalloproteinase 9 from Human Neutrophils.	共著	2010年7月	Infection and Immunity 78(7)
（論文）Staphylococcal superantigen-like protein 3 binds to the Toll-like receptor 2 extracellular domain and inhibits cytokine production induced by Staphylococcus aureus, cell wall component, or lipopeptides in murine macrophages.	共著	2012年8月	Infection and Immunity 80(8)
（論文）Staphylococcal superantigen-like protein 8 (SSL8) binds to tenascin C and inhibits tenascin C-fibronectin interaction and cell motility of keratinocytes.	共著	2013年3月	Biochemical and Biophysical Research Communications 433(1)
（論文）Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) inhibits blood coagulation by binding to prothrombin and factor Xa via their γ-carboxyglutamic acid (Gla) domain.	共著	2013年7月	Journal of Biological Chemistry 288(30)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）黄色ブドウ球菌毒素SSLの標的分子の探索		2014年5月	第15回 Pharmaco-Hematologyシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 遺伝情報学	職名 教授	氏名 星野 真一
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定教科書・参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）を作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 授業内容に沿った演習問題を作成、実施 ・ 演習による授業内容の復習と演習問題解説による習熟度向上への取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成22年1月29日	FDワークショップ参加修了	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）Anti-proliferative protein Tob negatively regulates CPEB3 target by recruiting Caf1 deadenylase.	共著	2011年	EMBO J vol.30
（著書）Mechanism of the initiation of mRNA decay: role of eRF3 family G proteins.	単著	2012年	Wiley Interdiscip Rev RNA vol.3
（論文）Translation termination factor eRF3 is targeted for caspase-mediated proteolytic cleavage and degradation during DNA damage-induced apoptosis.	共著	2012年	Apoptosis vol.17
（論文）Hbs1-Dom34 functions in non-stop mRNA decay (NSD) in mammalian cells.	共著	2013年	J Biol Chem vol.288
（論文）Anti proliferative protein Tob directly regulates c-myc proto-oncogene expression through cytoplasmic polyadenylation element-binding protein CPEB.	共著	2014年	Oncogene vol.33
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ストレス時のmRNA安定化とストレス顆粒形成の分子機構		2014年7月	第16回日本RNA学会年会
（演題名）B型肝炎の治療を目指した人工合成mRNAの安定化・高効率発現系の確立		2014年7月	第16回日本RNA学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～平成26年3月	日本薬学会東海支部幹事		
平成22年7月～平成25年7月	日本RNA学会プログラム委員・大会審査委員		
平成25年4月～現在	日本RNA学会BPP誌編集委員		
平成25年7月～平成26年7月	日本RNA学会第16回年会長		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 遺伝情報学	職名 講師	氏名 細田 直
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・複雑な生化学代謝経路が確実に理解できる授業資料（PowerPointスライド）を作成した。 ・授業内容の復習として、毎回の授業において問題演習を行った。 ・理解の定着を図るため、問題演習の解説を行った。 ・実習目的、原理、操作を詳細に記載した実習書を作成した。 ・実習内容を補足する解説資料（PowerPointスライド）を作成した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Anti-proliferative protein Tob negatively regulates CPEB3 target by recruiting Caf1 deadenylase	共著	平成23年4月	EMBO J., Vol. 30, No. 7
（論文）Biological Role of the Two Overlapping Poly(A)-binding Protein Interacting Motifs 2 (PAM2) of a Eukaryotic Releasing Factor, eRF3 in mRNA decay	共著	平成24年11月	RNA, Vol. 18, No.11
（論文）Translation termination factor eRF3 is targeted for caspase-mediated proteolytic cleavage and degradation during DNA damage-induced apoptosis	共著	平成24年12月	Apoptosis, Vol. 17, No.12
（論文）The Hbs1-Dom34 protein complex functions in non-stop mRNA decay (NSD) in mammalian cells	共著	平成25年6月	J. Biol. Chem., Vol. 288, No. 24
（論文）Anti-proliferative protein Tob directly regulates c-myc proto-oncogene expression through cytoplasmic polyadenylation element-binding protein CPEB	共著	平成26年1月	Oncogene, Vol. 33, No. 1
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）CPEBによるmRNAポリA鎖分解制御におけるTobの役割		平成26年6月	第2回CCR4-NOT研究会
（演題名）B型肝炎の治療を目指した人工合成mRNAの安定化・高効率発現系の確立		平成26年7月	第16回日本RNA学会年会
（演題名）eRF3ファミリーに属するGタンパク質GTPBP1の機能解析		平成26年7月	第16回日本RNA学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年7月	第16回日本RNA学会年会運営事務局		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	細胞分子薬効解析学	職名	教授	氏名	今泉 祐治
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					・執筆した教科書を基に講義資料（PowerPointスライド形式）を作成している ・講義内でCBT対策および国家試験に準拠した内容の確認問題・課題を取り入れている		
2 作成した教科書、教材、参考書			2009年12月14日 2013年3月		スタンダード薬学シリーズ6 薬と疾病（第2版）、東京化学同人（共著） パートナー薬理学（第2版）、南江堂（共著）		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）					なし		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称		
(論文) Involvement of dominant-negative spliced variants of the intermediate conductance Ca^{2+} -activated K^+ channel, $\text{K}_{\text{Ca}3.1}$, in immune function of lymphoid cells			共著	2011年5月	J Biol Chem. 286(19):16940-52		
(論文) TRIC-A channels in vascular smooth muscle contribute to blood pressure maintenance			共著	2011年8月	Cell Metab. 14(2):231-41		
(論文) Facilitated hyperpolarization signaling in vascular smooth muscle-overexpressing TRIC-A channels.			共著	2013年5月	J Biol Chem. 288(22):15581-9		
(論文) Role of the $\text{K}_{\text{Ca}3.1}$ K^+ channel in auricular lymph node CD4^+ T-lymphocyte function of the delayed-type hypersensitivity model.			共著	2013年7月	Br J Pharmacol. 169(5):1011-23		
(論文) Caveolin-1 facilitates the direct coupling between large conductance Ca^{2+} -activated K^+ (BK_{Ca}) and $\text{Cav}1.2$ Ca^{2+} channels and their clustering to regulate membrane excitability in vascular myocytes			共著	2013年12月	J Biol Chem. 288(51):36750-61		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月		学会名	
(演題名) Orai1-Orai2-STIM1 complex induces store-operated calcium entry in chondrocytes				2014年7月		17th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2014)	
(演題名) 創薬標的としてのカルシウム活性化イオンチャネル				2014年10月		CBI学会2014年大会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成23年11月～平成25年7月		第123回日本薬理学会近畿部会 部会長（平成25年7月開催）					
平成25年4月～現在		第88回日本薬理学会年会 年会長（平成27年3月開催）					
平成26年4月～現在		日本薬理学会 理事					
平成26年4月～現在		名古屋市立大学 理事・副学長					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	細胞分子薬効解析学	職名	准教授	氏名	山村 寿男
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						・教科書の内容をまとめた講義資料（PowerPointスライド形式）の作成 ・講義内で国家試験もしくはそれに準拠した内容の確認問題を取り入れている	
2 作成した教科書、教材、参考書						なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
(論文) Involvement of dominant-negative spliced variants of the intermediate conductance Ca^{2+} -activated K^+ channel, $\text{K}_{\text{Ca}3.1}$, in immune function of lymphoid cells				共著	2011年5月	J Biol Chem. 286(19):16940-52	
(論文) TRIC-A channels in vascular smooth muscle contribute to blood pressure maintenance				共著	2011年8月	Cell Metab. 14(2):231-41	
(論文) Enhanced Ca^{2+} -sensing receptor function in idiopathic pulmonary arterial hypertension				共著	2012年8月	Circ Res. 111(4):469-81	
(論文) Dihydropyridine Ca^{2+} channel blockers increase cytosolic $[\text{Ca}^{2+}]$ by activating Ca^{2+} -sensing receptors in pulmonary arterial smooth muscle cells				共著	2013年2月	Circ Res. 112(4):640-50	
(論文) Caveolin-1 facilitates the direct coupling between large conductance Ca^{2+} -activated K^+ (BK_{Ca}) and $\text{Cav}1.2$ Ca^{2+} channels and their clustering to regulate membrane excitability in vascular myocytes				共著	2013年12月	J Biol Chem. 288(51):36750-61	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
(演題名) Orai1-Orai2-STIM1 complex induces store-operated calcium entry in chondrocytes					2014年7月		17th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2014)
(演題名) マウス門脈平滑院細胞の Ca^{2+} 活性化 Cl^- チャネルを担うTMEM16Aの機能発現					2014年8月		第56回日本平滑筋学会総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成21年4月～現在		日本薬学会 薬理系薬学部会 若手世話人					
平成24年9月～現在		日本薬理学会 代議員					
平成25年4月～現在		第88回日本薬理学会年会 事務局長					
平成26年4月～現在		日本薬学会誌 ファルマシア トピックス小委員					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 細胞分子薬効解析学	職名 助教	氏名 鈴木 良明
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 初歩的かつ重要なテーマに関する講義資料（PowerPointスライド形式）の作成及び配布 ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）The multiple expression of Ca^{2+} -activated Cl^- channels via homo- and hetero-dimer formation of TMEM16A splicing variants in murine portal vein.	共著	2014年1月	Biochem Biophys Res Commun. 443(2):518-23
（論文）Caveolin-1 facilitates the direct coupling between large-conductance Ca^{2+} -activated K^+ (BK_{Ca}) and Cav1.2 Ca^{2+} channels and their clustering to regulate membrane excitability in vascular myocytes.	共著	2013年12月	J Biol Chem. 288(51):36750-61
（論文）Enhancement of Ca^{2+} influx and ciliary beating by membrane hyperpolarization due to ATP-sensitive K^+ channel opening in mouse airway epithelial cells.	共著	2013年10月	J Pharmacol Exp Ther, 347(1):145-53
（論文）Direct molecular interaction ofcaveolin-3 with KCa1.1 channel in living HEK293 cell expression system.	共著	2013年1月	Biochem Biophys Res Commun, 430(3):1169-74
（論文）Molecular assembly and dynamics of fluorescent protein-tagged single KCa1.1 channel in expression system and vascular smooth muscle cells.	共著	2012年4月	Am J Physiol Cell Physiol, 302(8):C1257-68
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Orai1-Orai2-STIM1 Complex Induces Store-Operated Calcium Entry in Chondrocytes		2014年7月	WCP 2014
（演題名） BK_{Ca} -Cav1.2複合体形成及び血管平滑筋細胞機能に対するカベオリン1／カベオラの寄与		2014年11月	心血管膜輸送研究会2014 心血管膜輸送分子の構造・機能・病態の統合的研究戦略.
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態生化学	職名	教授	氏名	服部 光治
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				・ 毎回、小テストを実施（基礎生物化学） ・ 全ての講義で穴埋め式プリントおよび補助プリントを配布 ・ 期末試験の過去問の割合は3割以下にする ・ 「知識確認問題」のプリントを配布（病態生化学） ・ 実験技術や情報伝達の説明では、ムービーを用いて説明			
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年		「カラー生化学・改訂版」西村書店 翻訳の分担			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		平成22年1月 平成25年10月 平成24-26年度		・ 薬学教育改革大学人ワークショップ修了 ・ 日本薬学会第3回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ修了 ・ 薬学部教務委員長			
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称			
(論文) Downregulation of functional Reelin receptors in projection neurons implies that primary Reelin action occurs at early/pre-migratory stages.		共著	August 2009	J. Neurosci. 29, 10653-10662.			
(論文) Mechanism of ER stress-induced brain damage by IP ₃ receptor.		共著	December 2010	Neuron 68, 865-878.			
(論文) Reelin controls neuronal migration and positioning by promoting neuronal adhesion to extracellular matrix via the inside-out activation of integrin α5β1.		共著	October 2012	Neuron 76, 353-369.			
(論文) Cleavage Within Reelin Repeat 3 Regulates the Duration and Range of Signaling Activity of Reelin.		共著	May 2014	J. Biol. Chem. 289, 12922-12930			
(論文) 神経難病の創薬ターゲットとしての巨大分泌タンパク質リーリン		単著	March 2012	日本薬理学会雑誌 139, 99-102			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月	学会名			
精神疾患関連タンパク質CSMD3の生理機能の解明			平成26年7月	第60回 日本薬学会東海支部大会			
リーリンの特異的分解はシグナルの持続性と範囲を制御している			平成26年9月	第37回 日本神経科学学会			
脳の形成と機能に重要な分泌タンパク質リーリンの不活化を担うプロテアーゼADAMTS-3に関する研究			平成26年10月	第87回 日本生化学会大会			
The novel function of Reelin in the dendrite development and layer formation in the postnatal brain.			平成26年11月	Society for Neuroscience, Neuroscience 2014 Meeting			
III 学会および社会における主な活動							
平成21年4月～平成23年3月		日本薬学会代議員					
平成25年4月～平成27年3月		日本薬学会代議員					
平成24年		第35回日本神経科学学会大会プログラム委員					
平成21年6月		国立生理学研究所研究会「シナプス可塑性の分子基盤」代表者					
平成26年6月		国立生理学研究所研究会「シナプス機能の普遍性と多様性」代表者					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態生化学	職名	講師	氏名	築地 仁美
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					- 内容を精選したPowerPointスライド形式の授業資料の作成と事前配布資料の作成 - 授業内容理解を助けるための小テストの実施 - アンケートにより学生からの意見を調査		
2 作成した教科書、教材、参考書					なし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			平成27年1月11日～12日		第52回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ修了		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称		
（著書）Animal models for neurodegenerative disorders.			共著	平成26年3月	Elsevier, Animal Biotechnology: Models in Discovery and Translation, Chapter 3, p39-56		
（論文）Spliceosome integrity is defective in motor neuron disease ALS and SMA.			共著	平成25年2月	EMBO press, EMBO Molecular Medicine, 5(2):221-34.		
（論文）Competition between a noncoding exon and introns: Gomafu contains tandem UACUAAC repeats and associates with splicing factor-1.			共著	平成23年5月	The Molecular Biology of Society of Japan, Genes Cells. 16, 479-490.		
（総説）ALSと脊髄内環境変化			共著	平成25年5月	北隆館／ニューサイエンス社, メディカル・サイエンス・ダイジェスト, 39(5), 13-16		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月		学会名	
（演題名）Abnormal RNA metabolism in motor neuron disease ALS.				平成26年8月		第37回日本神経科学大会シンポジウム	
（演題名）筋萎縮性側索硬化症ALSにおけるスプライソソーム異常				平成27年3月		日本薬学会第135回年会シンポジウム	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成26年7月		第16回日本RNA学会・運営委員					
平成26年7月		第26回愛知サマーセミナーにて講演					
平成26年11月		名古屋市立大学平成26年度市民公開講座にて講演					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態生化学	職名	助教	氏名	河野 孝夫
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						授業プリントの作成。小テスト及びその解説による習熟度向上の取り組み。	
2 作成した教科書、教材、参考書						なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
(論文) Mechanism and significance of specific proteolytic cleavage of Reelin.				共著	2009年2月	Biochem Biophys Res Commun., 380, 93-97.	
(論文) C-terminal region-dependent change of antibody-binding to the Eighth Reelin repeat reflects the signaling activity of Reelin.				共著	2009年11月	J Neurosci Res., 87, 3043-3053.	
(論文) Differential localization of sphingomyelin synthase isoforms in neurons regulates sphingomyelin cluster formation.				共著	2012年1月	Biochem Biophys Res Commun., 417, 1014-1017.	
(論文) A disintegrin and metalloproteinase with thrombospondin motifs 4 (ADAMTS-4) cleaves Reelin in an isoform-dependent manner.				共著	2012年9月	FEBS Lett., 586, 3349-3353.	
(論文) Cleavage within Reelin repeat 3 regulates the duration and range of the signaling activity of Reelin protein.				共著	2014年3月	J Biol Chem., 289, 12922-12930.	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月	学会名	
(演題名) 精神疾患関連タンパク質CSMD3の生理機能の解明					平成26年7月	第60回 日本薬学会東海支部大会	
(演題名) リーリンの特異的分解はシグナルの持続性と範囲を制御している					平成26年9月	第37回 日本神経科学学会	
(演題名) 海馬形成におけるリーリンC末端領域の重要性					平成26年9月	第37回 日本神経科学学会	
(演題名) 脳の形成と機能に重要な分泌タンパク質リーリンの不活化を担うプロテアーゼADAMTS-3に関する研究					平成26年10月	第87回 日本生化学会大会	
(演題名) 難読症関連遺伝子産物mKIAA0319による神経細胞形態制御の分子機構の解明					平成26年10月	第87回 日本生化学会大会	
(演題名) Specific proteolytic cleavage of Reelin regulates duration and range of its signaling.					平成26年11月	Society for Neuroscience, Neuroscience 2014 Meeting	
(演題名) Effect of CSMD3, a candidate gene of neuropsychiatric disorders, on neuronal morphology					平成26年11月	Society for Neuroscience, Neuroscience 2014 Meeting	
(演題名) The novel function of Reelin in the dendrite development and layer formation in the postnatal brain.					平成26年11月	Society for Neuroscience, Neuroscience 2014 Meeting	
III 学会および社会における主な活動							
なし							

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬物動態制御学	職名	教授	氏名	湯浅 博昭
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 授業内容に沿った演習問題集（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月10日		製剤学（第6版），南江堂（共著）			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		平成24年11月25日		日本薬学会第2回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ修了			
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称			
（論文）Molecular and functional characteristics of proton-coupled folate transporter		共著	平成21年5月	J. Pharm. Sci., Vol. 98, No. 5			
（論文）トランスポーター研究の動向2010		単著	平成22年8月	日本薬物動態学会ニュースレター， Vol. 25, No. 4			
（論文）Characterization of human OCT1-mediated transport of DAPI as a fluorescent probe substrate		共著	平成23年9月	J. Pharm. Sci., Vol. 100, No. 9			
（論文）Transcriptional regulation of PCFT by KLF4, HNF4α, CDX2 and C/EBPα: implication in its site-specific expression in the small intestine		共著	平成25年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol. 431, No. 2			
（論文）Functional characteristics of aquaporin 7 as a facilitative glycerol carrier		共著	平成26年6月	Drug Metab. Pharmacokinet., Vol. 29, No. 3			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月		学会名		
（演題名）H ⁺ 共役型葉酸トランスポーターの発現制御機構			平成26年10月		第87回日本生化学会大会		
（演題名）Sustained inhibitory effect of myricetin on folate transport by proton-coupled folate transporter			平成26年10月		19th NA ISSX/29th JSSX Meeting		
III 学会および社会における主な活動							
平成7年1月～現在		日本薬物動態学会評議員					
平成13年3月～現在		日本薬剤学会評議員					
平成22年1月～平成25年12月		日本薬物動態学会ニュースレター編集委員長					
平成24年5月～平成25年5月		日本薬剤学会第28年会組織委員					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬物動態制御学	職名	助教	氏名	太田 欣哉
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					・ 授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び配布 ・ 小テストによる授業内容の復習 ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み		
2 作成した教科書、教材、参考書					なし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			平成25年1月14日		第41回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海（愛知）修了		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称		
（論文）Functional characteristics of two human MATE transporters: kinetics of cimetidine transport and profiles of inhibition by various compounds			共著	平成21年12月	J. Pharm. Pharmaceut. Sci., Vol. 12, No.3		
（論文）Evaluation of 4',6-diamidino-2-phenylindole as a fluorescent probe substrate for rapid assays of the functionality of human multidrug and toxin extrusion proteins			共著	平成22年4月	Drug Metab. Dispos, Vol. 38, No. 4		
（論文）Characterization of human OCT1-mediated transport of DAPI as a fluorescent probe substrate			共著	平成23年9月	J. Pharm. Sci., Vol. 100, No. 9		
（論文）Transcriptional regulation of PCFT by KLF4, HNF4α, CDX2 and C/EBPα: implication in its site-specific expression in the small intestine			共著	平成25年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol. 431, No. 2		
（論文）Functional characteristics of aquaporin 7 as a facilitative glycerol carrier			共著	平成26年6月	Drug Metab. Pharmacokinet., Vol. 29, No. 3		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月		学会名	
（演題名）蛍光基質を用いたOATP2B1の迅速機能評価				平成26年5月		日本薬剤学会第29年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
なし							

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態解析学	職名	准教授	氏名	樋本 紀夫
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						・今日の講義の要点及び資料をプリント配布し、指定教科書に沿って実施 ・今日の講義の重要項目について課題プリントを配布、講義後回収し習熟度をチェック	
2 作成した教科書、教材、参考書				平成20年12月		物理系薬剤学，共立出版（共訳）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）						なし	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
（著書）リアルタイム計測による生命現象の解析				共著	平成23年3月	シーエムシー出版	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月	学会名	
（演題名）DNAを湾曲するHMG-1/2は塩基配列非特異的に長鎖DNAを折り畳み					平成26年9月	第52回日本生物物理学会年会	
（演題名）転写調節タンパク質STPRIは長鎖DNAを塩基配列非特異的に折り畳む					平成26年9月	第52回日本生物物理学会年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成24年4月～現在		愛知工業大学非常勤講師					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 病態解析学	職名 講師	氏名 岩城 壮一郎
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 視聴覚に訴える講義資料の作成 ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成25年1月14日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）修了	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Posttranscriptional regulation of expression of plasminogen activator inhibitor type-1 by cAMP in HepG2 liver cells.	共著	平成23年11月	J. Biochem., 150.
（論文）Circulating microRNA-126 in patients with coronary artery disease: correlation with LDL cholesterol.	共著	平成24年8月	Thrombosis J., 10: 16.
（論文）Posttranscriptional regulation of expression of plasminogen activator inhibitor type-1 by sphingosine 1-phosphate in HepG2 liver cells.	共著	平成24年11月	Biochim. Biophys. Acta, 1819.
（論文）スフィンゴシン1-リン酸のヒト皮膚線維芽細胞におけるコラーゲン産生に及ぼす影響.	共著	平成25年1月	日本褥瘡学会誌, 15巻1号.
（論文）Sphingosine kinase 1 expression is downregulated during differentiation of Friend cells due to decreased c-MYB.	共著	平成25年5月	Biochim Biophys Acta. 1833(5).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）スフィンゴ脂質が線溶系に与える影響の分子機構		平成26年5月	第15回Pharmaco-Hematologyシンポジウム
（演題名）NKTハイブリドーマにおけるGLP-1によるS1Pを介したTNF-α発現制御機構		平成26年5月	第36回日本血栓止血学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～平成20年3月	名古屋市立大学薬剤師生涯教育講座 運営委員		
平成20年11月～平成23年3月	文部科学省委託事業「社会人の学び直しプログラム」三公立連携薬剤師生涯学習支援講座 運営委員		
平成23年11月～平成26年3月	文部科学省専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業 「チーム医療に貢献する薬局薬剤師養成」運営委員		
平成25年12月～現在	第15回Pharmaco-Hematologyシンポジウム 事務局担当		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 医薬品代謝解析学	職名 教授	氏名 林 秀敏
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成 ・ 毎回の確認問題による授業内容のまとめ ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月10日	新しい衛生薬学	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成20年10月 ～平成22年3月	大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型 ナノメディシン創薬研究者の育成」代表者	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）The orphan nuclear receptor RORα restrains adipocyte differentiation through a reduction of C/EBPβ activity and perilipin gene expression.	共著	2009年6月	Molecular Endocrinology, 23(6), 759-771.
（論文）Two mechanistically and temporally distinct NF-κB activation pathways in IL-1 signaling.	共著	2009年10月	Science Signaling, 2(93), ra66.
（論文）Anaphase promoting complex/cyclosome-cdh1 mediates the ubiquitination and degradation of TRB3.	共著	2010年2月	Biochemical and Biophysical Research Communication, 392(3), 289-294.
（論文）Promotive effects of cell proliferation and chromosomal instability induced by TRB3 in mouse mammary tumor cells.	共著	2013年7月	Oncology Reports, 30(1), 64-70.
（論文）A novel transgenic mouse model carrying human TRB3 gene and its site specific phenotype.	共著	2014年6月	Biological Pharmaceutical Bulletin, 37(6), 1068-1074.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）p53 cooperates with Smad2/3 to activate PAI-1 transcription.		2014年9月26日	第73回日本癌学会学術総会
（演題名）p53 activity is regulated by a scaffold protein TRB1.		2014年11月27日	第37回日本分子生物学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～平成24年3月	環境省総合研究開発推進会議委員		
平成22年3月～平成24年2月	Biochem. Pharm. Bull 編集委員		
平成23年4月～現在	日本生化学会 代議員		
平成24年3月～現在	ファルマシア編集委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 医薬品代謝解析学	職名 准教授	氏名 井上 靖道
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び配布（PowerPointスライドの印刷版） ・ 授業内容に沿った演習問題集（PowerPointスライド形式）の作成及び配布（PowerPointスライドの印刷版） ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）細胞周期とがん抑制遺伝子	単著	平成24年9月	「がん増殖と悪性化の分子機構」宮澤恵二・伊東進・編 175-190. 化学同人
（論文）The roles of TGF-β signaling in carcinogenesis and breast cancer metastasis.	共著	平成24年4月	Breast Cancer, Vol.19, No. 2
（論文）ZSTK474, a specific PI3K inhibitor, induces G1 arrest of the cell cycle in vivo	共著	平成24年4月	Eur. J. Cancer, Vol.48, No. 6
（論文）Suppression of p53 activity through the cooperative action of Ski and histone deacetylase SIRT1	共著	平成23年2月	J. Biol. Chem, Vol.286, No. 8
（論文）SKI and MEL1 cooperate to inhibit transforming growth factor-β signal in gastric cancer cells	共著	平成21年1月	J. Biol. Chem, Vol.284, No. 5
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）メチルトランスフェラーゼSET8のTGF-β応答性転写調節における作用機構		平成26年6月	第18回日本がん分子標的治療学会学術集会
（演題名）がん悪性化におけるヒストンメチルトランスフェラーゼSET8のTGF-β応答性転写調節における作用機構		平成26年9月	第73回日本癌学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	医薬品代謝解析学	職名	助教	氏名	伊藤 友香
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		平成22年4月 平成22年7月		・ 学生からのアンケートに基づいた、学生実習での説明資料（PowerPointスライド形式、実習書）の改善 ・ 最新の研究内容を反映した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成			
2 作成した教科書、教材、参考書				なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）				なし			
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称			
（論文）An environmental sensor, TRPV4 is a novel regulator of intracellular Ca2+ in human synoviocytes.		共著	平成21年11月	Am. J. Physiol. Cell Physiol. Vol. 297, No. 5			
（論文）Cardiac fibroblasts have functional TRPV4 activated by 4alpha-phorbol 12,13-didecanoate.		共著	平成21年12月	Life Sci. Vol. 85, No.23-26			
（論文）Dihydrotestosterone inhibits interleukin-1α or tumor necrosis factor α-induced proinflammatory cytokine production via androgen receptor-dependent inhibition of nuclear factor-κB activation in rheumatoid fibroblast-like synovial cell line.		共著	平成23年8月	Biol. Pharm. Bull. Vol. 34: No. 11			
（論文）Hypoxia-inducible factor-1α (HIF1α) switches on transient receptor potential ankyrin repeat 1 (TRPA1) gene expression via a hypoxia response element-like motif to modulate cytokine release.		共著	平成24年9月	J. Biol. Chem. Vol. 287, No. 38			
（論文）The NADPH oxidase inhibitor diphenyleneiodonium activates the human TRPA1 nociceptor.		共著	平成26年6月	Am J Physiol Cell Physiol. (in press)			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月		学会名		
（演題名）TGF β によるPPAR γ の発現抑制と脂肪蓄積の制御			平成26年5月		第15回Pharmaco-Hematologyシンポジウム		
III 学会および社会における主な活動							
なし							

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 神経薬理学	職名 教授	氏名 桑 和彦
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・指定参考書に沿った授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び印刷物と電子媒体による配布（PowerPointスライドのPDF版） ・講義中に随時小テスト問題を出し、全員に解答させることで理解度把握と居眠りを防止	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年10月10日	・新規PBL課題作成と発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年10月3日	・公開研究授業実施	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Functional characterization of dopamine transporter <i>in vivo</i> using <i>Drosophila melanogaster</i> behavioral assays.	共著	2014年9月	Front Behav Neurosci 8: 303
（論文）Methionine metabolism regulates maintenance and differentiation of human pluripotent stem cells.	共著	2014年7月	Cell Metab 19: 780
（論文）VMAT2 identified as a regulator of late-stage β-cell differentiation.	共著	2014年2月	Nat Chem Biol 10: 141
（論文）Temporal organization of rest defined by actigraphy data in healthy and childhood chronic fatigue syndrome children.	共著	2013年11月	BMC Psych 13: 281
（論文）Identification of a dopamine pathway that regulates sleep and arousal in <i>Drosophila</i> .	共著	2012年10月	Nat Neurosci 15: 1516
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）シンポジウム3・ショウジョウバエを用いた睡眠の分子遺伝学的解析		平成26年10月	第87回 日本生化学会大会
（演題名）シンポジウム21・睡眠覚醒調節遺伝子		平成26年7月	日本睡眠学会第39回学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成22年12月～現在	日本時間生物学会理事		
平成26年7月21～25日	時間生物学国際サマースクール実行委員長		
平成19年～現在	日本睡眠学会評議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 神経薬理学	職名 准教授	氏名 大澤 匡弘
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定範囲の内容をいくつかの成書から厳選したまとめのプリントの作製と事前配布。また、イメージを多用した講義資料の作製（PowerPoint形式）と事前配布 ・ 毎回の講義内容を20分にまとめた動画スライドの事前配布（反転授業） ・ Team Based Learning（TBL）形式によるグループ討議を組み込んだ講義 ・ 焦点学習型講義による、学生の講義内での習熟度を測ることを可能にした講義構築など	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年10月	緩和医療薬学（分担執筆）南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書） Identification of the responsible sensory nerve fiber in the lisophosphatidic acid-induced neuropathic pain in mice.	共著	2013年9月	Neuroscience, Vol.247
（著書） Effect of naloxone on ischemic acute renal failure in the mouse.	共著	2013年8月	Neuropharmacology, vol.71
（論文） The dipeptide Phe-Phe amide attenuates signs of hyperalgesia, allodynia and nociception in diabetic mice using a mechanism involving the sigma receptor system.	共著	2011年10月	Molecular Pain, vol.7
（論文） RhoA/Rho kinase pathway contributes to the pathogenesis of thermal hyperalgesia in diabetic mice.	共著	2011年1月	Pain vol.152, No.1
（論文） Chlorpheniramine exerts anxiolytic-like effects and activates prefrontal 5-HT systems in mice.	共著	2011年2月	Psychopharmacology, vol.213, No.2-3.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） RhoA/Rho kinase pathway is new target for treatment of neuropathic pain		2014年2月	6th International conference on drug discovery and therapy（シンポジスト）
（演題名） がん悪液質発症の分子メカニズムとその治療薬への応用		2014年10月	日本緩和医療薬学会（シンポジスト）
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成19年4月	日本神経精神薬理学会 評議員		
平成20年4月	日本薬学会 薬理系薬学部会 若手世話人		
平成24年4月	日本緩和医療薬学会 理事		
平成24年4月	日本薬理学会 代議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 神経薬理学	職名 助教	氏名 山本 昇平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書の内容を補足および増強する授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 授業内容の理解度を測る演習問題の実施 ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） N- and L-type voltage-dependent Ca2+ channels contribute to the generation of after-discharges in the spinal ventral root after cessation of noxious mechanical stimulation.	共著	2012年1月	J Pharmacol Sci., Vol. 119, No. 1
（論文） High doses of oseltamivir phosphate induce acute respiratory arrest in anaesthetized rats.	共著	2012年10月	Basic Clin Pharmacol Toxicol., Vol. 111, No. 4
（論文） Reduction in sympathetic nerve activity as a possible mechanism for the hypothermic effect of oseltamivir, an anti-influenza virus drug, in normal mice.	共著	2013年7月	Basic Clin Pharmacol Toxicol., Vol. 113, No. 1
（論文） Contribution of TRPV1 receptor-expressing fibers to spinal ventral root after-discharges and mechanical hyperalgesia in a spared nerve injury (SNI) rat model.	共著	2013年1月	J Pharmacol Sci., Vol. 121, No. 1
（論文） Identification of the sensory nerve fiber responsible for lysophosphatidic acid-induced allodynia in mice.	共著	2013年9月	Neuroscience, Vol. 247
（論文） 慢性疼痛発現における脳内痛覚伝達系の亢進の関与	共著	2014年3月	日本薬理学雑誌, Vol., 134, No. 3
（論文） Gabapentin prevents oxaliplatin-induced mechanical hyperalgesia in mice.	共著	2014年9月	J Pharmacol Sci., Vol. 125, No. 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 医薬品安全性評価学	職名 教授	氏名 頭金 正博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ シラバスに沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 毎回の授業後に、授業内容に沿った演習課題の配布と解説	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年8月5日 平成25年8月15日	・ 図解 薬害・副作用学、南山堂（共著） ・ バイオ医薬品－開発の基礎から次世代医薬品まで、化学同人（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成26年4月	・ 文部科学省委託事業「レギュラトリーサイエンスに係る教材や教育方法の開発に関する調査研究」WGメンバーとして活動	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Evaluation of two Japanese regulatory actions using medical information databases: a 'Dear Doctor' letter to restrict oseltamivir use in teenagers, and label change caution against co-administration of omeprazole with clopidogrel.	共著	平成26年3月	J Clin Pharm Ther. 2014 Mar 24. doi: 10.1111/jcpt.12153.
（論文）Specific HLA types are associated with anti-epileptic drug-induced Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in the Japanese.	共著	平成25年11月	Pharmacogenomics (Future Medicine) 2013,14(15):1821-31
（論文）An algorithm for the identification of heparin-induced thrombocytopenia using a medical information database.	共著	平成25年10月	J Clin Pharm Ther. 2013 Oct;38(5):423-8.
（論文）A whole-genome association study of major determinants for allopurinol-related Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in Japanese patients.	共著	平成25年2月	Pharmacogenomics J. 2013 Feb;13(1):60-9.
（論文）HLA-B*1511 is a risk factor for carbamazepine-induced Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in Japanese patients.	共著	平成22年12月	Epilepsia. 2010 Dec; 51(12):2461-5.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Consideration points on ethnic factors		平成26年5月	2014 APEC LSIF Joint MRCTs and GCP Inspection Workshop
（演題名）GENETIC VARIATIONS IN ABCB1 INFLUENCE PHARMACOKINETIC PARAMETERS OF SIMVASTATIN		平成26年10月	19th NA ISSX/29th JSSX Meeting
III 学会および社会における主な活動			
平成18年10月～現在	内閣府食品安全委員会添加物調査会座長代理		
平成21年4月～現在	（独）医薬品医療機器総合機構専門委員		
平成22年1月～現在	日本薬物動態学会評議員		
平成22年9月～現在	厚生労働省レセプト情報等の提供に関する有識者会議構成員		
平成24年3月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成24年4月～現在	日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会常任世話人		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 病院薬剤学	職名 教授	氏名 木村 和哲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 授業内容に沿った演習問題集（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドのPDF版） ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめ ・ 演習問題解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		やさしい臨床医学テキスト(薬事日報社)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Highly frequent and enhanced injection site reaction induced by peripheral venous injection of fosaprepitant in anthracycline-treated patients.	共著	平成26年4月	J Cancer. Vol. 5, No.5.
（論文）Photomanipulation of vasodilation with a blue-light-controllable nitric oxide releaser.	共著	平成26年5月	J Am Chem Soc.,Vol.136, No.19.
（論文）Aortic superoxide production at the early hyperglycemic stage in a rat type 2 diabetes model and the effects of pravastatin.	共著	平成26年4月	Bio Pharm Bull., Vol.37, No.6.
（論文）Upregulation of KCa3.1 K(+) channel in mesenteric lymph node CD4(+) T lymphocytes from a mouse model of dextran sodium sulfate-induced inflammatory bowel disease.	共著	平成26年5月	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol., Vol. 306, No. 10.
（論文）Assessment of androgen replacement therapy for erectile function in rats with type 2 diabetes mellitus by examining nitric oxide-related and inflammatory factors.	共著	平成26年4月	J Sex Med., Vol. 11, No. 4.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）がん化学療法におけるHBV再活性化アラートシステムの有用性の検討		平成26年3月	日本薬学会134年会
（演題名）小児ラットに対するフルクトース過剰摂取が将来の勃起機能に与える影響		平成26年9月	第25回日本性機能学会
III 学会および社会における主な活動			
平成19年～現在	日本性機能学会理事		
平成25年～現在	日本緩和医療薬学会理事		
平成26年～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成24年～現在	愛知県病院薬剤師会副会長		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	病院薬剤学	職名	講師	氏名	前田 康博
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					PowerPointスライド形式による資料作成と事前配布 課題の討論とその発表		
2 作成した教科書、教材、参考書			平成25年11月1日		飲食物と薬の相互作用、 永井書店		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）					なし		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称		
（論文）A case of holocarboxylase synthetase deficiency with insufficient response to prenatal biotin therapy.			共著	2009年	Brain Dev., Vol. 31, No.10		
（論文）Detection of Pivaloylcarnitine in Pediatric Patients with Hypocarnitinemia after Long-Term Administration of Pivalate-Containing Antibiotics			共著	2010年	Tohoku J. Exp. Med., Vol, 221, No. 4		
（論文）Evaluation of valproate effects on acylcarnitine in epileptic children by LC-MS/MS			共著	2011年	Brain Dev., Vol. 33, No.10		
（論文）Oral l-Citrulline Supplementation Improves Erectile Function in Rats with Acute Arteriogenic Erectile Dysfunction.			共著	2013年	J. Sex. Med., Vol. 10, No. 10		
（論文）Assessment of Androgen Replacement Therapy for Erectile Function in Rats with Type 2 Diabetes Mellitus by Examining Nitric Oxide-Related and Inflammatory Factors.			共著	2014年	J. Sex. Med. Vol. 11, No. 4		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月		学会名	
（演題名）Acyl-CoA analysis by UPLC/MS/MS for enzyme activity assay in a patient and with methylmalonic acidemia				平成26年9月		SSIEM Annual Symposium 2014	
（演題名）UPLC-MS/MSによる軽症メチルマロン酸血症患者における酵素活性測定法の検討				平成26年10月		第39回日本医用マススペクトル学会年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成23年10月～現在		日本医用マススペクトル学会評議員					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 内藤 敏子
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		有機元素分析の測定（依頼分析）	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 堀田 祐志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿った内容ならびに関連する最新のトピックを交えた内容の授業資料を作成し配布。 ・ 学生の習熟度向上を目指し各回に小テスト（記述式）を実施	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Assessment of androgen replacement therapy for erectile function in rats with type 2 diabetes mellitus by examining nitric oxide-related and inflammatory factors.	共著	2014	J Sex Med. 11(4):920-929.
（論文）Oral l-citrulline supplementation improves erectile function and penile structure in castrated rats.	共著	2014	Int J Urol. 21(6):608-612.
（論文）Oral L-citrulline supplementation improves erectile function in rats with acute arteriogenic erectile dysfunction.	共著	2013	J Sex Med. 10(10):2423-2429.
（論文）Limited effect of testosterone treatment for erectile dysfunction caused by high-estrogen levels in rats.	共著	2012	Int J Impot Res. 25(6): 201-205.
（論文）Effects of chronic vardenafil treatment persist after end of treatment in rats with acute arteriogenic erectile dysfunction.	共著	2012	J Sex Med, 9:1782-1788.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）小児ラットに対するフルクトース過剰摂取が将来の勃起機能に与える影響		平成26年9月	日本性機能学会第25回学術総会
（演題名）Excessive fructose administration from childhood may induce oxidative stress via the AGE-NADPH oxidase pathway, resulting in erectile dysfunction in adult rats		平成26年10月	The 16 th World Meeting on Sexual Medicine
III 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～平成24年3月	「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成広報委員		
平成24年4月～平成25年3月	「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成運営・カリキュラム委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	臨床薬学	職名	教授	氏名	鈴木 匡
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				・実務実習事前学習のPBL型授業の構築（症例検討、注射実技、手話、OTC販売などの新しい研修の導入と評価方法・外部薬剤師講師の導入） ・実務実習での施設間連携のマニュアルならびに評価方法の確立 ・医療系学部連携による地域参加型学習の導入と評価方法の確立 ・専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業立案、企画、実施 ・未来医療人材養成事業 薬学部における新しい授業、実習の立案と実施			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年9月19日		わかりやすい病院実務実習テキスト第2版 じほう（共著）			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年9月23日 平成25年10月26日 平成26年9月27日		・第46回日本薬剤師会学術大会 特別講演「大学がサポートする薬局薬剤師の臨床研究そして生涯研鑽」 ・第57回日本薬学会関東支部大会シンポジスト講演「F薬学臨床が育成する薬剤師像」 ・第24回日本医療薬学会年会教育講演「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		平成24年8月, 25年8月, 26年8月 平成24年8月31日, 25年8月29日 平成24年11月, 25年10月, 26年11月 平成25年9月13日 平成26年11月 平成26年12月		・日本薬学会全国学生ワークショップ タスクフォース（第2, 3, 4回） ・文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ タスクフォース ・日本薬学会薬学教育者のためのアドバンスドワークショップ タスクフォース（第2, 3, 4回） ・文部科学省 薬学教育モデル・コアカリキュラム改定案全国説明会 F薬学臨床 担当 ・薬学教育協議会 実務実習改善のための全国ワークショップ2014 タスクフォース ・日本医学教育学会 第41回医学教育者のためのワークショップ（富士研）修了			
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）		発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
（論文）糖尿病薬物療法模擬体験学習の教育効果		共著		2011年3月		YAKUGAKU ZASSHI Vol.131	
（論文）三公立大学連携による薬剤師生涯支援の試み		共著		2011年1月		YAKUGAKU ZASSHI vol.131	
（総説）薬剤師教育の充実とは「薬局薬剤師と薬学教育		単著		2014年1月		医薬ジャーナル vol.50	
（総説）大学がプロデュースする薬剤師生涯研鑽		単著		2014年6月		ファルマシア vol.50	
（総説）大きく改訂された「F薬学臨床」の概要		単著		2014年10月		日本病院薬剤師会雑誌 vol.50	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月		学会名	
（演題名）糖尿病薬物治療の薬剤師模擬体験によるアドヒアランスに影響を与える要因の検討				2014年9月		日本医療薬学会	
（演題名）薬局検体測定室における継続的HbA1c測定の効果				2014年11月		日本薬学会東海支部学術大会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成22年6月～		愛知県薬剤師会 理事 平成25年6月より常務理事					
平成22年6月～		愛知県国民健康保険診療報酬審査委員会委員 平成23年6月より再審査委員兼務					
平成23年4月～平成25年3月		病院・薬局実務実習東海地区調整機構委員長					
平成23年4月～平成27年3月		日本薬学会 薬学教育委員会 委員					
平成25年4月～		日本薬学会 薬学雑誌編集長・学術誌部門長・学術誌編集委員					
平成26年3月～		文部科学省 薬学実務実習に関する連絡会議 副座長					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 臨床薬学	職名 教授	氏名 松永 民秀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料の作成と配布（PowerPointスライド形式） ・ 授業内容に沿った補助参考資料集の作成及び配布（Word形式） ・ 毎回の小演習による授業内容のまとめと疑問に対する解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年4月5日	薬剤学実験法 必携マニュアルーPharmaceutical Scientistのために、南江堂（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年12月12日	東北大学大学院薬学研究科（スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成セミナー）	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成23年12月26日-28日	日本薬学会第1回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ修了	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Differentiation into pharmacokinetically functional enterocyte-like cells from human induced pluripotent stem cells using a simple method.	共著	平成26年2月	Drug Metabol. Pharmacokin., Vol. 29(1): 44-51
（論文） An efficient method for differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocyte-like cells retaining drug metabolizing activity.	単著	平成26年6月	Drug Metab. Pharmacokinet., Vol. 29(3): 237-243
（論文） Histone deacetylase inhibitor valproic acid promotes the differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocyte-like cells.	共著	平成26年8月	PLoS One, Vol. 9(8):e104010
（論文） Selective culture method for hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells.	共著	平成26年10月	Drug Metab. Pharmacokinet., Vol. 29(5): 407-413
（論文） Human small intestinal epithelial cells differentiated from adult intestinal stem cells as a novel system for predicting oral drug absorption in humans.	共著	平成26年11月	Drug Metab. Dispos., Vol. 42(11): 1947-1954.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Utility of iPS Cells for Drug Metabolizing Enzyme Expression		平成26年10月	19th NA ISSX/29th JSSX Meeting
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	薬剤師試験委員		
平成25年10月～現在	内閣府食品安全委員会専門調査会専門委員		
平成25年12月～現在	とっとりバイオイノベーション外部評価委員		
平成26年1月～現在	日本薬物動態学会ニュースレター編集委員長		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 臨床薬学	職名 准教授	氏名 中村 克徳
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び事前配布（PowerPointスライドの印刷版） ・ 毎回の授業内容に沿った小テストの作成及び解説による習熟度向上の取り組み	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	平成24年4月～	東海薬物治療研究会 幹事	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Differentiation of monkey embryonic stem cells to hepatocytes by feeder-free dispersion culture and expression analyses of cytochrome p450 enzymes responsible for drug metabolism.	共著	平成25年2月	Biol Pharm Bull. Vol. 36, No. 2
（論文） Mechanism-based inhibition profiles of erythromycin and clarithromycin with cytochrome P450 3A4 genetic variants.	共著	平成25年5月	Drug Metab Pharmacokinet. Vol. 28, No. 5
（論文） Establishment and directed differentiation of induced pluripotent stem cells from glycogen storage disease type Ib patient.	共著	平成25年12月	Genes to Cells. Vol. 18, No.12
（論文） An Efficient Method for Differentiation of Human Induced Pluripotent Stem Cells into Hepatocyte-Like Cells Retaining Drug Metabolizing Activity.	共著	平成26年3月	Drug Metab Pharmacokinet. Vol. 29, No. 3
（論文） Case report: dose adjustment of warfarin using genetic information and plasma concentration monitoring.	共著	平成26年3月	J Clin Pharm Ther. Vol. 39, No. 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Community health care program “ NAGOYAKA MODEL ” to prepare for the super aging society in Nagoya		平成26年6月	第 3 回 AASP 薬学部長フォーラム 2014
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～平成24年3月	日本薬学会代議員、日本薬学会関東支部幹事		
平成24年4月1日～	日本人類遺伝学会、教育委員（平成26年4月1日～）		
平成25年9月～平成27年6月	愛知県薬剤師会 学術情報部会 部員		
平成26年1月1日～	日本薬物動態学会評議員、総務委員会委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 臨床薬学	職名 講師	氏名 岩尾 岳洋
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		・ 指定参考書に沿って内容を精選した授業資料（PowerPointスライド形式）の作成及び配布 ・ 演習問題を行うことによる理解度の確認 ・ 授業内容に関する臨床現場における実例、新規性の高い話題などの盛り込み	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年4月5日	薬剤学実験法 必携マニュアル -Pharmaceutical Scientistのために-, 南江堂（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）ヒトESおよびiPS細胞から肝細胞様細胞および腸管組織への分化誘導	共著	平成23年4月	Drug Metab. Pharmacokinet., Vol. 26, No. 2
（論文）薬物動態研究におけるヒト多能性幹細胞の活用	共著	平成24年3月	薬剤学, Vol. 72, No. 2
（論文）Differentiation of human induced pluripotent stem cells into functional enterocyte-like cells using a simple method	共著	平成26年2月	Drug Metab. Pharmacokinet., Vol. 29, No. 1
（論文）An efficient method for differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocyte-like cells retaining drug metabolizing activity	共著	平成26年6月	Drug Metab. Pharmacokinet., Vol. 29, No. 3
（論文）Selection culture method for hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells	共著	平成26年4月	Drug Metab. Pharmacokinet., in press
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ヒトiPS細胞由来小腸幹細胞の至適培養法の開発		平成26年9月	第66回日本生物工学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成22年5月～	病院・薬局東海地区調整機構ワーキンググループ2委員		
平成23年5月～平成25年5月	病院・薬局東海地区調整機構事務局		
平成25年7月，平成26年7月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海（愛知）タスクフォース		
平成26年1月～	日本薬物動態学会評議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	臨床薬学	職名	講師	氏名	菊池 千草
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					・ 基礎薬学演習のPBLの導入，企画，シナリオ作成，運営を行っている． ・ 実務実習事前学習全般を担当している．当大学独自の患者の心理を把握する実習として，「糖尿病薬物療法体験学習」を立案し，実践している．		
2 作成した教科書、教材、参考書			平成21年10月1日 平成23年10月1日 平成26年4月1日		実務実習事前学習テキスト＜2009年度版＞ 実務実習事前学習テキスト＜2011年度版＞ 基礎薬学演習PBL用シナリオ		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			平成21年9月27日 平成21年5月24日		第8回糖尿病・心・腎疾患チーム医療研究会特別講演「今後の糖尿病教育について」 第52回日本糖尿病学会年次学術集会「患者教育のスペシャリスト育成を目指してー薬学生の糖尿病薬物治療体験学習の試みー」		
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			平成24年4月1日		本学の女性研究者支援室室員として育成活動としてセミナーを企画、運営した．		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称		
（著書）大学と保険薬局が連携して解決すべき実務実習の問題点			単著	平成21年10月	医薬ジャーナル Vol. 45, No. 10		
（著書）COURAGE TO CHALLENGE 挑戦する女性研究者たち			共著	平成24年7月	名古屋市立大学男女共同参画室・女性研究者支援室		
（著書）愛知県内4大学薬学部5年生を対象とした愛知県薬剤師会に関するアンケート			単著	平成25年3月	薬苑 Vol. 602		
（論文）糖尿病薬物療法模擬体験学習の教育効果			共著	平成23年3月	Yakugaku Zasshi Vol. 131, No. 3		
（論文）Aortic superoxide production at the early hyperglycemic stage in a rat type 2 diabetes model and the effects of pravastatin			共著	平成26年6月	Biol. Pharm. Bull. Vol. 37, No. 6		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月		学会名	
（演題名）薬学部の実務実習事前授業で実施した糖尿病服薬指導体験学習の実務実習後評価				平成26年5月		第57回日本糖尿病学会年次学術集会	
（演題名）2型糖尿病モデルラット大腿動脈におけるAGEsによるスーパーオキシド産生増加およびプラバスタチンによる抑制効果機序の解明				平成26年9月		第24回医療薬学会年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成12年4月～現在		糖尿病イブニングカンファレンス（糖尿病イブニングセミナーと改称）世話人					
平成19年6月～平成25年5月		愛知県薬剤師会勤務薬剤師兼青年薬剤師部会部員（婦人勤務青年薬剤師部会と改称）					
平成21年4月～平成25年3月		愛知県薬剤師会代議員					
平成25年4月～現在		糖尿病・心・腎疾患チーム医療研究会世話人					